

令和 7 年度

事業報告書

社会福祉法人 都島友の会

〒 534-0021 大阪市都島区都島本通 3-4-3

事業報告の内容を補足する重要事項がないため、事業報告の附属明細書は作成しておりません。

令和 7 年度事業報告書(目次)

I 令和 7 年度本部事業報告	1
II 事業の内訳	9
III 事業別報告	
1. 第一種社会福祉事業	
(1)老人福祉施設 《特別養護老人ホームひまわりの郷》	10
2. 第二種社会福祉事業	
(1)放課後児童健全育成事業《都島児童館》	13
(2)認定こども園・保育所	15
(3)児童厚生施設・子育て支援事業	25
(4)児童発達支援センター	28
《こども発達サポートステーションそれいゆ》	
(5)児童発達支援・放課後等デイサービス	31
(6)老人福祉施設 《友渕地域在宅ステーションひまわり》	32
(デイサービス・在宅介護支援サービス・訪問介護ひーぐるま)	
(7)老人福祉施設 《特別養護老人ホームひまわりの郷》	36
(短期入所生活介護・社会貢献事業)	
3. 公益事業	
(1)居宅介護支援事業	37
(2)比嘉正子地域貢献事業研修センター	38
(3)保育士等キャリアアップ研修事業	39
4. 収益事業	
(1)賃貸ビル(福祉ビル)	40
5. 研修報告	
人権研修、役員研修、外部研修、法人内研修、アウトリーチ型研修、 保育士等キャリアアップ研修	41

I 令和7年度本部事業報告

○適正な法人運営

定款及び諸規程を遵守し、理事会・評議員会のもと適正な業務執行に努めるとともに、安定的な財務基盤の確立、透明性の高い財務管理など本部業務を推進した。

法人の児童・高齢各施設は、保護者・利用者家族のご協力をいただきながら、安全安心の施設運営を行った。

○理事会

令和7年6月6日 6月23日 7月10日 8月19日 10月21日

令和7年12月6日 令和8年1月26日 3月23日

議案は別紙のとおり

○評議員会

令和7年6月23日 令和8年3月31日

議案は別紙のとおり

○役員選任

令和7年6月23日に開催された定時評議員会で、理事には渡久地歌子、寄瀬博光、谷池 洋、伊禮良樹、安藤幹雄、丸山智子、西嶋善親の7氏の再任と西平 哲氏の新任、監事には尾崎拓司、松野剛史の2氏の再任を決議した。任期は、令和8年度会計に関する定時評議員会終結時まで。

同日開催された理事会で、渡久地理事長、寄瀬常務理事が選定された。

○評議員選任

令和7年6月12日に開催された評議員選任・解任委員会で、理事会から推薦のあった伊藤榮保、仲元典允、臼井美耶子、金澤忠博、樋口圭子、古山勝彦、木幡利至朗の7氏の再任と、社会福祉法人旭ヶ丘学園理事長上田達志、社会福祉法人種の会理事長片山雄基の2氏の新任を決議した。任期は、令和10年度会計に関する定時評議員会終結時まで。

○評議員選任・解任委員会委員選任

令和7年6月23日に開催された理事会で、監事の尾崎拓司氏、法人事務局次長の村松聡氏、外部委員の森本恭子氏が評議員選任・解任委員会委員に選任(再任)された。任期は、令和10年度会計に関する定時評議員会終結時まで。

○苦情解決第三者委員の委嘱

上田達志氏の評議員就任に伴い、理事会の同意を得て、令和7年6月23日付けで下田亜紀子氏(社会福祉法人なみはや福社会大東保育園 元園長)を苦情解決第三者委員に委嘱した。任期は、令和7年8月31日まで。

任期満了に伴い、理事会の同意を得て、大阪は、秦 啓員、花田公絵、下田亜紀子の3氏に委嘱、任期は令和7年9月1日～令和9年8月31日。沖縄は、令和7年4月1日に遡及し渡嘉敷 見、神里ヨシ子の2氏に委嘱した。任期は令和9年3月31日まで。

○監 査

法人監事監査(尾崎監事・松野監事) 令和7年6月2日

幼保連携型認定こども園・保育園に係る指導監査

(こども青少年局) 令和7年11月11日～13日

保育園にかかる指導監査(那覇市こども未来部) 令和8年2月10日

特別養護老人ホームひまわりの郷対する指導監査

(福祉局) 令和7年8月19日

友渚地域在宅サービスサービスステーションひまわりに対する運営指導

(福祉局) 令和7年11月5日

○福祉サービス第三者評価の受審

都島友渚乳児保育センター 令和7年2月12日・13日

○苦情解決第三者委員会

令和6年度下半期及び令和7年度上半期の苦情受付処理状況を報告

大阪 令和7年11月4日 沖縄 令和7年12月3日

○大阪・沖縄本部との合同検討会

令和7年11月27日(渡保育園)

○経営会議 施設長会

経営会議 案件に応じ随時開催

施設長会 高齢者施設会議 毎月定例開催

○園長会 副園長会 主任会

随時開催

○法人部会

法人内部会

採用検討委員会 看護師連絡会 リスクマネジメント委員会 他

法人外部会

私立保育園連盟の各部会 府社協保育部会

府知的障害児者施設連絡協議会

市老人福祉施設連盟 区社会福祉施設連絡会 他

都島区社会福祉施設連絡会

○施設整備

・幼保連携型認定こども園成育児童センター

増築工事が、令和 7 年度・8 年度の整備事業として承認され、入札による請負業者の選定を経て、令和 7 年 11 月 4 日に工事着手、令和 8 年 10 月末完成を目指して工事を推進中(進捗率 60% 令和 8 年 5 月末現在)。

園舎延床面積 365.28 m² → 1326.73 m²

認可定員 107 名 → 153 名

○高齢者事業の組織

高齢化が進む友渕地域で、友渕地域在宅サービスステーションひまわりが、在宅介護の要として機能を最大限に発揮させるため、令和 7 年 4 月に、訪問介護事業所をひまわり内に移転し、通所介護・訪問介護・居宅介護支援の三位一体の運営体制を構築するとともに、11 月 1 日にセンター長を設置した。

○人材確保と処遇改善

採用検討委員会を中心に、保育士・介護士養成校への訪問、就職フェアへの参加、施設見学者への説明、SNS 等を利用した情報発信・継続的なアプローチ等リクルートに努め、保育職員 13 名、指導員 1 名、介護職員 5 名を採用した。なお職員体制確保にあたり、各園とも一部、派遣職員を配置した。

人材確保と離職防止のため、令和 8 年度も前年度の人事院勧告を踏まえ、初任給引上げと給与表改正を実施した。保育士宿舍借上げ事業は、令和 7 年度末で 13 名が利用。

○保育士等キャリアアップ研修

比嘉正子地域貢献事業研修センターで乳児教育・幼児教育など 7 分野 5 単元 35 講義の保育士等キャリアアップ研修を実施した。受講者は 169 名、修了者は 164 名。

○研 修

保育士等キャリアアップ研修(比嘉正子地域貢献事業研修センター)
各施設における研修
大阪府社会福祉協議会などが実施する外部研修へ参加
詳細は 41 頁以降に掲載

○人 事

経験、適正に応じた法人内異動の実施
令和 8 年 4 月 1 日付辞令交付
昇格・異動 計 5 名 (昇格 3 名 異動 2 名)
新規採用 計 13 名 (保育教諭 8 名 保育士 5 名 指導員 1 名 介護職員 4 名)
経験、技能に応じ、副主任・リーダーの配置と処遇

○表 彰

大阪市社会福祉施設従事者 市長表彰 1 名 感謝状 4 名
全国社会福祉協議会 会長表彰 2 名
大阪府社会福祉協議会 知事表彰 2 名 会長表彰 1 名
大阪市社会福祉協議会 会長表彰 1 名

○福利厚生

ひまわり親睦会
令和 7 年 12 月 6 日 ホテルニューオータニ大阪
児童施設非常勤職員慰労会
高齢施設ボランティア感謝の集い
各施設の厚生会活動に対し福利厚生費として補助

○財 務

新会計基準のもと、適正な財務管理に努めている
法人の財務状況について法人ホームページで公表
監事監査報告書 財務情報 事業報告書 現況報告書

○広報活動

・広報誌ゆんたく
令和 7 年 7 月発行 No41 4,000 部
令和 8 年 3 月発行 No42 5,000 部 (創立 95 周年特別号)

保護者 利用者家族 地域 社会福祉関係他に配付

- ・各施設ホームページを随時更新
- ・幼保連携型認定こども園・保育園から毎月「園だより」をよいこネットで配信
- ・施設行事の地域への周知、参加呼びかけ
- ・各施設週報告(施設長から理事長 事務局長 全施設長)
- ・Web 小説 比嘉正子物語「蒼天に咲くひまわりの愛」をホームページで連載
令和7年3月17日～令和8年3月9日 毎週月曜更新 全48話

令和7年度理事会開催状況

開催年月日 出席状況	議 案 内 容
7. 3. 21	①令和6年度補正予算(案)について
理事 8	②令和7年度事業計画(案)について
監事 2	③令和7年度収支予算(案)について
	④定員変更について
	⑤定款変更について
	⑥規則・規程の一部改正について
	⑦役員賠償責任保険契約の内容について
	⑧評議員会の招集について
	⑨施設長の選任について
	業務執行報告
7. 6. 6	①令和6年度事業報告の承認について
理事 8	②令和6年度計算関係書類及び財産目録の承認について
監事 2	③幼保連携型認定こども園成育児童センター増築に伴う独立行政法人福祉医療機構からの借入について
	④役員候補者について
	⑤評議員選任候補者の推薦について
	⑥評議員選任・解任委員会の開催について
	⑦苦情解決第三者委員の委嘱について
	⑧理事に対する報酬総額の範囲内の改正について
	⑨役員等退職慰労金規程の一部改正について
	⑩役員退職金の支給について
	⑪定時評議員会の招集について
	報告 沖縄の渡・松島両園の課題整理と検討会の設置について
7. 6. 23	①理事長及び常務理事の選定について
理事 8	②評議員選任・解任委員会委員の選任について
監事 2	
7. 7. 10	①幼保連携型認定こども園成育児童センター増築工事 業務委託契約の締結について
理事 8	②幼保連携型認定こども園成育児童センター増築の建設にかかる入札参加業者募集要項について
監事 2	
7. 8. 19	①幼保連携型認定こども園成育児童センター増築工事 入札参加指名業者の決定について
理事 6	
監事 1	
7. 10. 21	①幼保連携型認定こども園成育児童センター増築工事 請負契約の締結について
理事 8	
監事 2	
7. 12. 6	①都島乳児保育センター「こども誰でも通園制度」の導入について
理事 6	
監事 2	
8. 1. 26	①幼保連携型認定こども園成育児童センター増築工事 工期変更に伴う工事請負契約及び建築士の業務委託契約の変更について
理事 8	
監事 1	

8. 3. 23	①令和7年度補正予算(案)について
理事 監事	②令和8年度事業計画(案)について
	③令和8年度収支予算(案)について
	④定員変更について
	⑤定款変更について
	⑥規則・規程の一部改正について
	⑦役員賠償責任保険契約の内容について
	⑧評議員会の招集について
	⑨施設長の選任について
	業務執行報告

※定数

理事 8

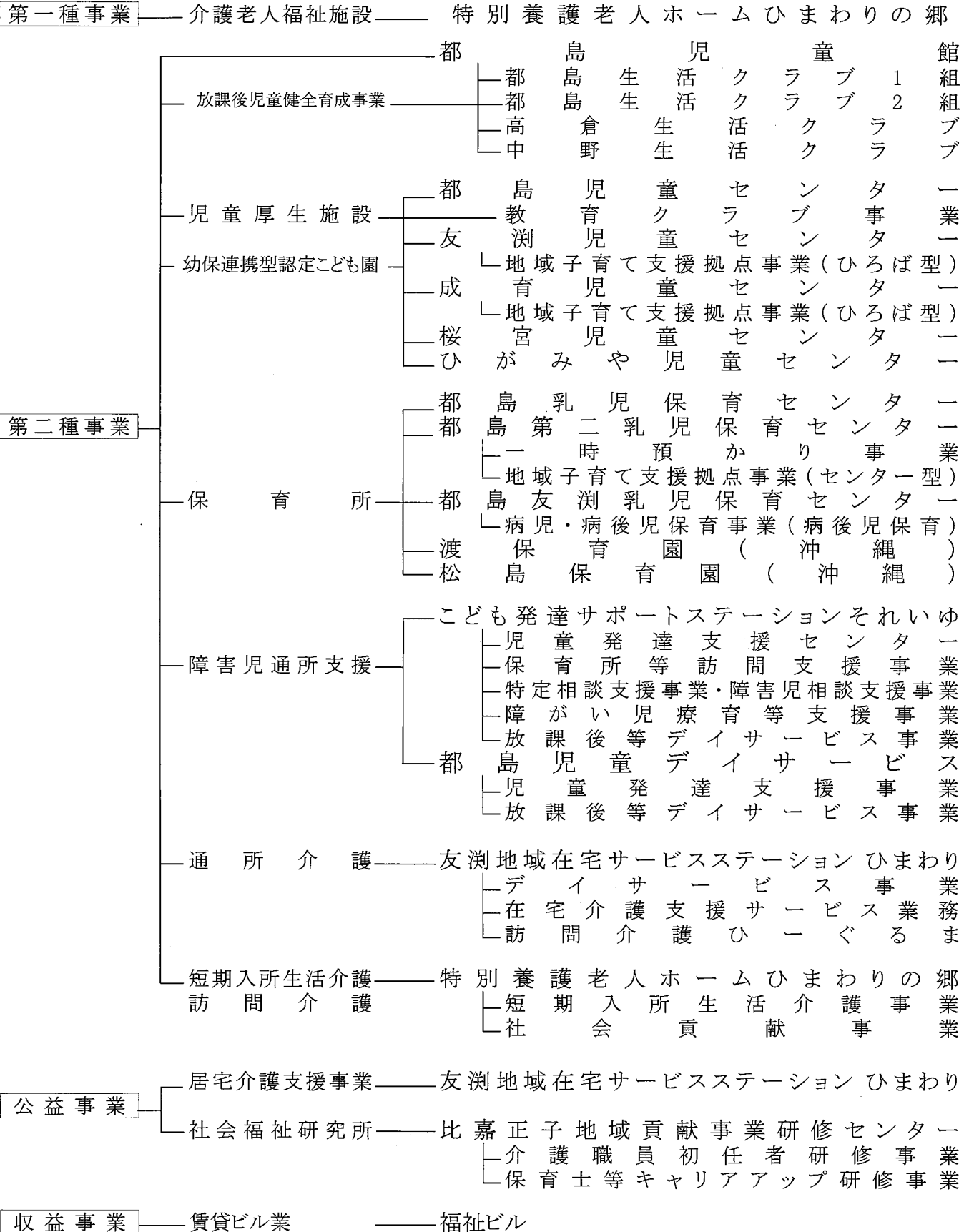
監事 2

令和7年度評議員会開催状況

開催年月日 出席状況	議 案 内 容
7. 3. 31	①令和6年度補正予算(案)について
評議員 9	②令和7年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
理事 3	③定款変更について
	業務執行報告
	報告 令和7年度管理職異動
7. 6. 23	①令和6年度計算書類及び財産目録の承認について
評議員 8	②令和6年度事業報告の報告について
理事 5	③役員(監事)の選任について
	④理事に対する報酬総額の範囲内の改正について
	⑤役員等退職慰労金規程の一部改正について
	⑥役員退職慰労金の支給について
8. 3. 31	①令和7年度補正予算(案)について
評議員	②令和8年度事業計画(案)及び収支予算(案)について
理事	③定款変更について
	業務執行報告

※定数
評議員 9

II 事業の内訳

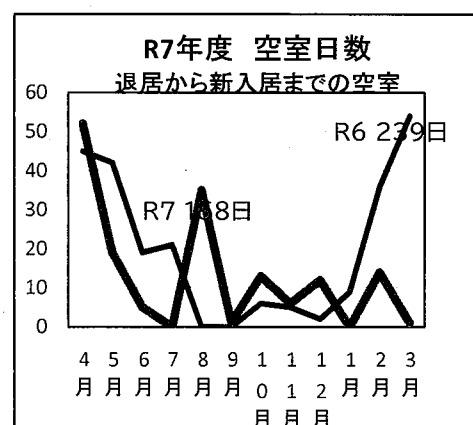
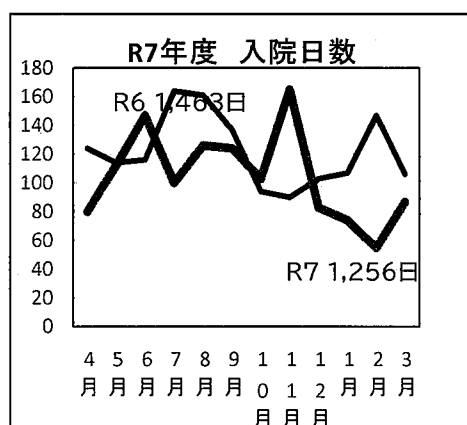
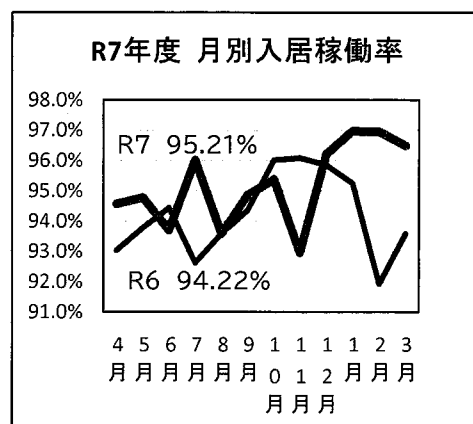
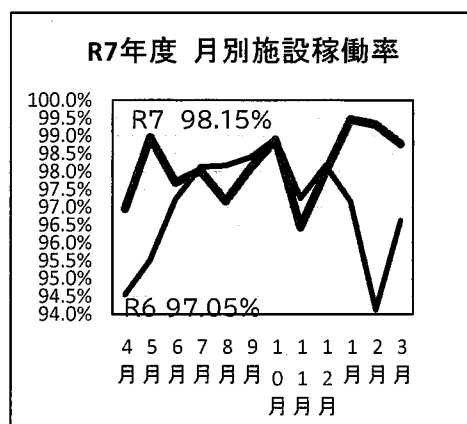


1. 第一種社会福祉事業

(1) 特別養護老人ホーム ひまわりの郷

特養定員数	81名
短期入所定員数	9名
利用延数※	32,243名
施設稼働率※	98.15%
男性介護度	4.21
女性介護度	4.09
平均介護度	4.11
男性平均年齢	82.8歳
女性平均年齢	89.5歳
平均年齢	88.3歳
最高年齢	106歳
最若年齢	60歳
看取り介護中	4名
胃瘻	1名

※延数及び稼働率には短期入所を含む



職員数

常勤職員									非常勤職員			合計
施設長	生活相談員	機能訓練指導員	介護支援専門員	管理栄養士	看護師	介護職員	事務職員	計	常勤並	短時間	計	
1	1	(1)	1	1	3	28	3	37	4	27	31	68

令和8年3月31日現在

固定資産取得価格一覧

摘要	金額
厨房機器(ガステーブル、1槽シンク、製氷機、冷蔵庫)	888,800
ノートパソコン 16台	3,044,800
来客用トイレウォシュレット	127,050
見守りセンサーユニット一式	5,755,200
Wi-Fi環境設備一式	7,425,000
5 件	17,240,850

主たる修繕

給湯循環ポンプ修理
厨房配膳車修理

コメント（特養）

(1) 取り組み

1. 介護報酬改定への取組

① 地域包括ケアシステムの深化・推進

- ◇ 緊急時等の対応方法について、配置医師及び協力医療機関（医誠会国際病院）の協力を得て、必要に応じて緊急時等における対応方法の変更等を行った。
- ◇ 入所者の入院を原則として受け入れる体制を確保して、協力医療機関名称に関しては、大阪市へ届出を提出した。
- ◇ 協力医療機関（医誠会国際病院）とは、新興感染症の発生時等における連携強化を図った。

② 自立支援・重度化防止に向けた対応

- ◇ 口腔衛生管理加算の算定を継続するにあたり、歯科医・歯科衛生士との連携体制を強化した。
- 定期的な口腔状態の評価と口腔ケア計画の見直しを実施し、入居者の口腔衛生状態に応じたケアの質向上を図った。これらの継続的な取り組みにより、摂食嚥下機能の維持、低栄養予防、生活の質の向上に寄与した。

③ 良質な介護サービスの効率的な提供に向けた働きやすい職場づくり

- ◇ 良質な介護サービスを安定的かつ効率的に提供するため、働きやすい職場環境の整備に取り組んだ。
- 職員一人ひとりの状況把握と働きやすさの向上を目的に、年1回の個別面談を実施し、業務負担や職場環境に関する意見を把握して改善につなげた。
- また、生産性向上委員会を継続的に開催し、業務の標準化、情報伝達の安定化、業務フローの見直しを進めることで、職員が迷わず業務を遂行できる体制を整備した。

④ その他の事項/各サービス共通事項の取組

- ◇ 運営基準省令上、重要事項説明書をホームページに掲載した。

2. 施設稼働率向上の取組

- ◇ 令和7年度は、令和6年度と比較して空床発生が大幅に減少し、退居数も少ない月が多かったことから、年間を通じて高い稼働率を維持することができた。入院時の情報連携や入退院支援の強化により、入院による長期空床が減少したことも稼働率向上に寄与した。

3. 施設内サービス向上及び地域開放の取組

- ◇ 夏祭りについて、昨年に続き開催した。
- ◇ 法人95周年イベントを開催した。

(2) 課題

1. 介護現場の生産性向上

- ◇ 令和7年度は、現場レベルでの生産性向上に向けて、生産性向上委員会を中心に業務の標準化、情報伝達の安定化、業務フローの見直しを進めてきたが、これらの取り組みは各部署単位での改善にとどまり、組織全体の最適化や経営視点での改善には十分に結びついていない点が課題として残った。

この課題に対応するため、令和8年度は経営生産性向上委員会を新たに設置し、組織横断的な課題整理と改善方針の策定を行った。

委員会では、業務効率化、人材育成、ICT活用など、施設運営全体に関わるテーマを扱い、現場改善に加えて、経営レベルでの生産性向上に向けた基盤づくりを進めたい。

今後の課題としては、委員会が策定した改善方針を現場へ確実に浸透させる仕組みづくりや、ICT活用・業務再設計の具体的な実装、人材育成体系の再構築などが挙げられ、引き続き組織全体で取り組む必要がある。

2. 増収の取組

- ◇ 令和7年度の特養（入所＋短期）の稼働率は、全体で98.16%（予算97.95%）と予算を上回り、増収に寄与する非常に良好な稼働状況で推移した。

まず、長期入所は95.2%（予算95.5%）とほぼ予算どおりで安定しており、施設運営の基盤として堅調な稼働を維持した。

一方、短期（ショートステイ）は124.7%（予算120.0%）と高稼働を達成し、ベッド回転率の高さが施設全体の稼働率を押し上げる構造が明確となった。

結果として、施設全体の稼働率は予算比+0.21%となり、都市部特養としても高水準の稼働を確保できた。

令和8年度は、この高稼働を維持しつつ、さらなる増収を図るため、入退所管理の強化とショートステイ枠の最適化を重点的に進める。

入退所管理では、入院リスクの早期察知、退院調整の前倒し、入所待ちリストの精度向上、退所後の即時対応など、稼働率のブレを最小化するための運用改善を行う。

また、ショートステイについては、回転率の管理、固定枠と変動枠の併用、キャンセル対策、ショートから長期入所への導線づくりを進め、安定した高稼働を維持する運営モデルを構築する。

さらに、稼働率と職員配置基準の関係を踏まえ、月次での稼働率シミュレーションや、ICTを活用した予約管理の効率化を進めることで、増収と適正配置の両立を図る。これらの取り組みにより、令和8年度は稼働率の安定化と増収の両面で、持続的な経営基盤の強化を目指す。

3. 令和9年度介護報酬改定に伴う準備

- ◇ 令和8年度は、翌年度に予定されている令和9年度介護報酬改定に向けた準備年度として位置づけ、制度改定が施設運営に与える影響を分析し、必要な対応項目を整理したいと考えている。

今回の改定では、夜勤配置基準の見直し、ICT活用の推進、科学的介護の強化、処遇改善加算の一本化、地域区分の再編など、施設運営に大きな影響を及ぼす内容が多く、早期の準備が不可欠である。

こうした背景を踏まえ、経営生産性向上委員会を中心に、組織横断的な課題整理と改善方針の検討を進めたい。

委員会では、業務効率化、人材育成、ICT活用など、施設運営全体に関わるテーマを扱い、現場改善に加えて、経営レベルでの生産性向上に向けた基盤づくりを図りたい。

主な課題として整理した内容は以下のとおりである。

■ 夜勤配置基準見直しへの対応

- ・ 夜勤体制の再検討を図りたい
- ・ 見守り機器の活用範囲拡大や巡視削減を検討したい
- ・ 夜勤職員数のシミュレーションを進めたい

- ICT活用・科学的介護(LIFE)への対応
 - ・ 記録の標準化とICT入力効率化を進めたい
 - ・ モニタリング項目の見直しを図りたい
 - ・ 機器導入コストと運用負担のバランス調整が課題
- 自立支援・重度化防止へのシフト
 - ・ 多職種連携の強化を図りたい
 - ・ 口腔・栄養・リハビリの一体的支援体制を構築したい
- 処遇改善加算の一本化への対応
 - ・ 賃金改善計画の再構築を図りたい
 - ・ 配分ルールの見直しを進めたい
 - ・ 職員説明の準備が必要
- 地域区分・基本報酬の見直しへの対応
 - ・ 収入影響の試算を進めたい
 - ・ 経費構造の見直しを図りたい
 - ・ 令和9年度予算への反映が課題

これらの課題を踏まえ、令和9年度改定を単なる制度対応にとどめず、施設運営の見直しと生産性向上の機会として捉え、継続的に準備を進めたい。

4. 設備面

- ◇ 令和8年度は、施設の安全性向上とICT基盤整備を進めるため、大阪府介護テクノロジー導入支援事業への申請を行い、Wi-Fi環境の構築および見守りカメラの導入を進めたいと考えている。
これにより、入所者の安全確保と職員の業務効率化を図りたい。
また、社会情勢による物価高騰の影響を受け、1品目を1社のみから購入する場合、倒産等により安定供給が停止するリスクが高まっている。
そのため、単に最安値で選択するのではなく、複数社の見積りから平均値を算出し、価格の妥当性と安定供給の両立を図りたい。
さらに、設備の経年劣化が進んでいることから、
厨房機器については、配膳車・オゾングリストラップ・給湯器など、老朽化が著しい機器のリニューアルを進めたい。
これにより、厨房業務の安定性と衛生管理の向上を図る必要がある。
介護機器についても、開設時から使用しているベッド50台が耐用年数を大きく超えており、故障リスクや安全性の観点から更新が急務となっている。
そのため、ベッド50台についてリース契約を締結し、計画的な更新を進めたい。
これらの設備面の課題に対し、ICT基盤の強化、調達方法の見直し、老朽設備の更新を計画的に進め、安定したサービス提供と持続可能な運営体制の構築を図りたい。

5. 稼働率向上

- ◇ 長期入所は安定し、短期(ショートステイ)は高稼働で推移したが、短期依存による変動リスクが課題である。
令和8年度は、入退所管理の強化とショート枠の最適化を進め、稼働率の安定化と高水準の維持を図りたい。

6. 人材確保

- ◇ 採用活動の強化と職員定着に向けた環境整備を進め、安定した人材確保と育成体制の構築を図りたい。
 - 採用活動の強化
 - ・ 高校・専門学校との連携を強化し、若手人材の確保を進めたい
 - ・ 施設見学・説明会の充実により、応募者との接点を増やしたい
 - ・ 求人媒体の見直しと情報発信の強化を図りたい
 - 新人教育・育成体制の強化
 - ・ フロア全体で新人を育てる体制を整えたい
 - ・ OJTの標準化と指導者の育成を進めたい
 - ・ 新人が迷わない業務マニュアル・A4掲示の整備を図りたい
 - 職員定着と働きやすい環境づくり
 - ・ 世代間ギャップを埋めるコミュニケーション改善を進めたい
 - ・ 業務負担軽減のため、ICT・介護機器の活用を図りたい
 - ・ メンタルケア・相談体制の強化により、離職防止を進めたい
 - 中堅・リーダー層の育成
 - ・ 将来の管理職候補となる中堅職員の育成を図りたい
 - ・ 役割と責任の明確化により、組織力の強化を進めたい
- これらの課題に取り組むことで、採用・育成・定着の三位一体で人材確保を進め、安定した施設運営につながる人材基盤を構築したい。

2. 第二種社会福祉事業

(1) 都島児童館

学年・学校別人数(令和8年3月31日登録児童数) - 都島生活クラブ1・2組

学年 学校名	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
都島小学校	0	0	0	4	2	0	6
東都島小学校	19	13	9	8	6	3	58
合計	19	13	9	12	8	3	64

学年・学校別人数(令和8年3月31日登録児童数) - 高倉生活クラブ

学年 学校名	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
友淵小学校	3	9	2	1	3	2	20
高倉小学校	2	1	1	3	3	0	10
合計	5	10	3	4	6	2	30

学年・学校別人数(令和8年3月31日登録児童数) - 中野生活クラブ

学年 学校名	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
中野小学校	2	2	2	1	2	0	9
都島小学校	6	8	4	5	0	0	23
							0
合計	8	10	6	6	2	0	32

職員数

職員数		都島1・2	高倉	中野	計
常勤	館長				0
	支援員	2	1	2	5
	補助員	0	0	0	0
非常勤	支援員	3	2	2	7
	補助員	1	3	0	4
	その他	0	0	0	0
計		6	6	4	16

固定取得価格一覧

摘要	金額
パソコン 4台	605,000
計	605,000

主たる修繕

非常灯設備修繕
間仕切り改修工事

コメント(都島児童館)

昨年度からの「リーダー、副リーダー体制」を引き続き実施。リーダー・副リーダーも変更していないため、リーダー等に任せているよう雰囲気も感じた。各クラブでは児童数・学年等に応じた取り組みはしているが、他のクラブとの連携が少ないようにも感じた。そういった中、保護者行事の「ドッジボール大会」により、保護者間同士のつながるきっかけができた。子どもの主体性も大切だが、低学年も多い中、職員がいろいろな遊びや活動を提案し、子どもたちが個々に合った活動が選択できるような環境作りも考えていきたい。

年度途中に大阪市との申請・報告等が「kinton」に移行したため、可能な範囲で職員にも入力・報告等を引き渡す。これにより職員も役割を認識できたと思う。

非常勤職員も経験年数を重ねてきたので、補佐ではなく1支援員として保育してもらえるようにしたい。

【設備】ICT機器補助金を利用して、ノートパソコン・プリンター購入(各クラブ)

障がい児環境整備補助金利用して、ソフトサークル購入(都島1組)

	事業計画に基づく取り組み・成果	課題・改善点
都島1	低学年児童が一気に増加したが、環境設定や職員間での情報共有の強化により、室内活動での安定感が増し、結果として室外活動に行く機会が増え、昨年度までの課題は改善された。 一方、児童間でのトラブル、出欠や習い事への通所など多岐にわたる情報を都度保護者と共有することが難しく、トラブルが顕在化してからの対処になってしまうこともあり、現実的に運用可能な情報共有の在り方の構築が必須である。 この点においては2組担任とも共有を図り問題解決に向け取り組んでいきたい。	事務作業の複雑化、児童数の増加により職員1人1人の負担は例年以上に大きかったと思われる。より職員が保育に専念できる環境設定と職員間での連携強化が急務である。 →現在行っている事務作業を効率的にシステム化し、保育報告、保育準備など子どもに向き合う時間の増加を目標とする。 習い事やパソコンを活用した宿題など数年前とは子どもたちを取り巻く状況も大きく変化しており、そのため保護者とも密な情報共有が必要となる場面も多く、都島の児童数を考慮すると個別に対応することが困難であった。 →しおりに記載されている事項について、保護者側の認識が弱まっている場面は感じられた。そのため「児童館からお願い」という形で定期的な発信や、保護者との懇談会などで意見を共有できる機会を設ける施策を検討したい。
都島2	児童数が多く、環境設定を中心に職員全体で日々共有を図りながら、それぞれが保育に向けた準備、保育に取り掛かる。序盤は新1年生を上の子たちの力も借りながら手厚く見守りつつ、終盤では中高学年が下の子たちの面倒を見る場面が多く見られるなど、学童ならではの光景がここ数年で多く見られるようになってきた。人数が多いということもあり、長期休みでは終日メリハリがなく、以前は体調不良やストレスを感じる子どもが見られたが、ここ数年については、ただ終日楽しく過ごすだけでなく、こまめに子どもの活動時間を区切ることを意識することで、気持ちや落ち着いた環境へと近づけることが出来たと思う。	環境設定を中心に、異学年との関りや長期休みについて子どもの活動のメリハリなど、都島生活クラブを担当して4年目となるので、ここでのこれまでの経験と事例、感じたことを集大させ年間を通じて、子どもと利用者の方へ安心と安定感をお伝えできるよう、更に緻密に細かく保育の質を職員全体で上げて行けるように努めている。
高倉	今年度もオープンなレイアウトを継続。施設内での活動を常に把握し、子どもが生活している時に起きるであろう事象にすぐに対処できるよう心がける。今年度はそれぞれの子どもの好きなことや得意な分野を無理のない範囲で任せる大臣制を導入。任命された子どもたちは自覚を持ち、積極的に活動してくれていた。また、そうすることによって、職員と子どもの関係性だけでなく、子どもから子どもへと関わる機会が増えたので、全体的に子どもたちの繋がりが大きくなり、昨年より異年齢の関係性が深まるのが早く感じた。	外あそびによく利用している公園の地域の子の使い方によっては怪我や事故のリスクが高くなると感じる。現在球技ができる公園が周辺に一つしかないのも、少し遠くても安全に球技ができる公園を見つけていく必要がある。 一人帰りで降館する子どもの保護者への対応が電話やメールが多くなっている。新たなICTを活用し、普段あまり活動を見れてない保護者にも安心してもらえるよう心がける。
中野	昨年の課題は職員が増えたことにより、改善されているように感じる。今年は外遊びに力を入れ、ボールの追加やサッカーゴールの購入など外遊びの環境を改善。サッカーゴールをハンドボールのゴールにする様子や野球に活用する様子など今までにない活動をする子どもたちの姿が見られた。外での活動が盛んになったことにより、精神面でも強くなった子が増え、できないことに挑戦する姿が多く見られた。また、他学年との交流も増え、室内でも一緒に活動をする姿も見られた。保護者の方からも「運動ができる環境や一緒に活動してくれる大人がいてくれて助かっています」と感謝の言葉をくださることが増えた。 引き続き外遊びの改善と追及をするとともに室内でも活動を楽しめるように環境改善に努める。	①習い事の声掛けのタイミングが中野の職員しかわからず、ヘルプで来られた職員たちが把握しづらい状況だったので、習い事や児童の帰宅時間などを可視化すべきだと感じた。同様に普段の園庭を使うルールも可視化する。 ②職員が増えたので他施設のフォローを今後していければと感じた。 ③何も考えずに職員に答えを求める児童が多いように感じる。職員間で共通意識を話あい、子どもたちの主体性を養っていければと思う。

(2) 幼保連携型認定こども園・保育所

委託児童数（年間延べ人数）

※下段()は障害児数再掲

園名	年	利用定員	4月初日 在園児数	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
認定こども園 都島児童センター	1号	15	16				108	8	48	164
	2.3号	316	237	115	244	300	605	648	640	2,552
		331	253	115	244	300	713	656	688	2,716
認定こども園 友渕児童センター	1号	25	15				60	48	72	180
	2.3号	211	170	61	165	216	587	592	504	2,125
		236	185	61	165	216	647	640	576	2,305
認定こども園 成育児童センター	1号	6	2						33	33
	2.3号	90	88	97	203	203	204	192	213	1,112
		96	90	97	203	203	204	192	246	1,145
認定こども園 桜宮児童センター	1号	15	2			11	12	12		35
	2.3号	150	143	94	244	276	372	397	332	1,715
		165	145	94	244	287	384	409	332	1,750
認定こども園 ひがみや児童センター	1号	15	11			12	51	36	48	147
	2.3号	225	190	94	201	234	624	530	609	2,292
		240	201	94	201	246	675	566	657	2,439
都島乳児保育センター	3号	70	46	111	249	274				634
都島第二乳児保育センター	3号	60	51	84	293	310				687
都島友渕乳児保育センター	3号	40	38	108	180	176				464
渡 保 育 園	2.3号	80	65	58	128	144	175	159	144	808
松 島 保 育 園	2.3号	100	77	33	212	213	177	156	132	923
計		1,418	1,151	855	2,119	2,369	2,975	2,778	2,775	13,871
				(0)	(12)	(30)	(54)	(48)	(24)	(168)

年度途中入所受け入れ状況

園名	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
都 島 児 童 セ ン タ ー				2	1	2	1		2	2	3			13
友 渕 児 童 セ ン タ ー				3	1	4	1							9
成 育 児 童 セ ン タ ー				3	4									7
桜 宮 児 童 セ ン タ ー			1	1		1				1	1		1	6
ひ が み や 児 童 セ ン タ ー			2	1	1	2		2	4	2	2	2	1	19
都 島 乳 児 保 育 セ ン タ ー				1	2	2		1	1	4		4		15
都 島 第 二 乳 児 保 育 セ ン タ ー			2		1	4	2		3	2	1			15
都 島 友 渕 乳 児 保 育 セ ン タ ー									1		1			2
渡 保 育 園				1		1			2					4
松 島 保 育 園			1	3	1	2			1					8
計		0	6	15	11	18	4	3	14	11	8	6	2	98

延長保育利用延べ人数

園名	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
都 島 児 童 セ ン タ ー		184	176	185	147	89	132	144	117	104	71	89	111	1,549
友 渕 児 童 セ ン タ ー		136	136	150	159	114	151	155	110	137	118	114	132	1,612
成 育 児 童 セ ン タ ー		79	81	93	109	54	101	88	63	90	48	77	77	960
桜 宮 児 童 セ ン タ ー		182	225	218	226	163	221	255	174	215	228	201	229	2,537
ひ が み や 児 童 セ ン タ ー		145	175	163	130	80	149	157	140	152	150	122	150	1,713
都 島 乳 児 保 育 セ ン タ ー		66	72	70	83	62	99	80	61	71	62	52	72	850
都 島 第 二 乳 児 保 育 セ ン タ ー		16	32	37	43	38	42	48	50	35	41	45	36	463
都 島 友 渕 乳 児 保 育 セ ン タ ー		44	45	54	45	36	27	29	23	36	37	51	36	463
渡 保 育 園		48	31	30	76	63	46	57	59	79	58	47	63	657
松 島 保 育 園		111	104	115	159	150	137	133	124	142	122	130	97	1,524
計		1,011	1,077	1,115	1,177	849	1,105	1,146	921	1,061	935	928	1,003	12,328

職員数(子育て支援事業含む)

(下段は無資格)

	常勤職員								非常勤職員			派遣職員			合計	
	施設 園長	主任 副園長	主幹 保育教諭	保育 士	看護 師	栄養 士	調理 師	その他	計	常勤 並	短時 間	計	常勤 並	短時 間		計
認定こども園 都島児童センター	1	1	2	14				1	19	7 0	8 4	15 4	2	2	4 0	42
認定こども園 友渚児童センター	1		2	9	1				13	12 1	3 5	15 6	3		3 0	37
認定こども園 成育児童センター	1		2	9			1		13	3 1	11 4	14 5	1		1 0	33
認定こども園 桜宮児童センター	1	1	1	9					12	4	11 5	15 5	2 1	2 1	4 2	38
認定こども園 ひがみや 児童センター	1		2	13				1	17	7 1	4 5	11 6	3	2	5 0	39
都島乳児 保育センター	1	1		4				1	7	9	4 6	13 6			0 1	27
都島第二乳児 保育センター	1	1		7			1		10	5	14 4	19 4			0 0	33
都島友渚乳児 保育センター	1	1		5					7	6	7 1	13 1			0 0	21
渡 保 育 園	1	1		9			2	1 (事務統括)	14	1	4	5 0			0 0	19
松島保 育 園	1	1		8			1		11	4	4	8 0			0 0	19
合 計	10	7	9	87	1	5	4		123	58 3	70 34	128 37	11 1	6 2	17 3	308

令和8年3月31日現在

固定資産取得価格一覧

都島児童センター	
非常通報装置本体取替え	438,900
ノートパソコン2台	414,370
複合機	495,055
絵本コーナー本棚	329,450
スライドデント	170,000
5 件	1,847,775

友渕児童センター	
ノートパソコン3台	653,400
複合機	414,260
2 件	1,067,660

成育児童センター	
ノートパソコン1台	229,900
増築工事設計・監理料他	170,474,860
2 件	170,704,760

桜宮児童センター	
室内カメラITV設備一式	2,532,200
複合機	493,955
2 件	3,026,155

ひがみや児童センター	
ノートパソコン4台	935,000
室内カメラITV設備一式	3,208,150
フードプロセッサー	137,830
3 件	4,280,980

都島乳児保育センター	
ノートパソコン3台	704,000
保育遊具	287,000
ひな壇2台	251,900
3 件	1,242,900

都島第二乳児保育センター	
雨除けカーテン工事	603,900
ノートパソコン2台	432,300
複合機	376,860
3 件	1,413,060

都島友渕乳児保育センター	
非常通報装置本体取替え	402,600
ノートパソコン2台	404,800
電気温水器取替え	153,626
複合機	376,860
保育遊具	118,391
5 件	1,456,277

渡保育園	
給電HUB	104,134
2chワイヤレス受信機	418,000
2 件	522,134

松島保育園	
オルガン2台	368,000
給電HUB	107,800
ノートパソコン2台	275,000
3 件	750,800

主たる修繕

都島児童センター
オープンポート修繕 エレベーター機能維持工事 保育所、給食室各所修繕

友渕児童センター
園内補修工事 タイル張替え工事 排水管洗浄 舞台カーテンレール取付け工事

成育児童センター
地下雑排水槽清掃 カラン取替え工事 エレベーターブレーキ部品交換

桜宮児童センター
スチームコンベクションオープン修理 消防設備改修 排水管洗浄

ひがみや児童センター
食器洗浄機修理 空調室内機洗浄

都島乳児保育センター
空調室内機洗浄 門扉ハンドル交換 防災ヘルメット壁掛板設置

都島第二乳児保育センター
消防設備改修 排水管洗浄 屋内消火栓ホース更新他

都島友渕乳児保育センター
床張り替え工事 ロールスクリーン取付け工事 空調室内機洗浄

渡保育園
園庭整地工事 キュービクル土間水抜き工事 保育室畳取替え

松島保育園
門扉開閉錠取替え

コメント(幼保連携型認定こども園1)

都島児童センター	○取組・成果について ・法人の教育保育理念・方針を基本とし、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をに基づき、0歳から小学校就学までの一貫した質の高い教育・保育を提供することを掲げた。 ・職員間で連携を取りながら保護者の理解のもと、0歳から5歳まで落ち着いた環境の中で教育保育を進めることが出来た。 ・インフルエンザの全国的な流行や近隣小学校での感染拡大に伴い園児の感染も多数見られたが、早めの受診や消毒等、感染対策に取り組んだため、各学年の感染を最小限に抑えることが出来た。 ・参観・保育参加は平日の午前中に設定しているが、多くの保護者が参加している状況である。園での様子を保護者に見ていただく機会が増え、子どもたちの成長を感じてもらえたり、職員の子どもたちへの関わり等、園の取組を理解してもらえる場となった。 ・HP(動画を含む)の更新(72回)を頻繁に行い、園内の様子を保護者や地域の方々にも周知することが出来た。 ・0・1歳児Hokkori(親子ふれあい)を平日午前中の別日程で行うことで時間に追われることなく、ゆったり親子のふれあいを行うことができ、また、職員と保護者と子どもの成長を喜びあう場となった。 ・4月、園児221名職員47名(育休4名含む)でスタートしたが、4月末までに2名が復帰したため、落ち着いてクラスを運営することが出来た。 ・途中入園児を13名(主にきょうだい関係)受入れたが、職員の配置状況やクラス担任と連携をとりながら落ち着いた環境の中で受入れることが出来た。 ・派遣職員2名が年度途中(1月・2月)に抵触日を迎えた。育休中の職員2名のうち1名が1月末に復帰したため、配置基準不足とはならなかったが、加算部分で減算となった。 ・4・5歳児に向けて「プライベートゾーンの話」「命の話」等、担任からだけでなく、看護師・保健師から話を聞くことでより子どもたちが理解を深めることが出来た。 ・配慮を必要とする園児や気になる園児が増え、園児や保護者への対応に苦慮していたが、引き続き専門の講師を依頼し職員研修を定期的に行うことで個々への支援方法や保護者への対応等、更に理解を深め実践することができた。今年度も保護者に寄り添いながら丁寧な話をする中で専門機関へ繋げることが出来た園児が多数いた。 ・中野生活クラブの小学生と園庭でのドッジボールや日々の活動の中での関わりも増え、異年齢交流も自然に行うことが出来るようになってきている。 ・保育士資格のみで勤務していた職員1名が、幼稚園教諭免許を取得した。 ・令和7年度4月から開園時間が7:00～18:30となるが、1年3ヶ月前より保護者に知らせていたこともありスムーズに進めることが出来た。 ・法人創立95周年を控えた記念イベントでは、子どもたちも楽しんで人形劇を観劇することが出来た。 ○今後の課題 ・研修で身につけたスキルが、職員だけでなく園全体のレベルアップにつながるような取り組みを進めていく。 ・第三者評価の次年度受審に向け、会議等を通して職員間の共通理解のもと、教育保育の見直しを行う。 ・職員の勤務体制や職務内容・職務分担を見直し、職員からの提案を聞きながら業務改善を図ると共に労働時間内の終業を目指し、週休2日制に向けて体制を整えていくようにする。 ・正規職員の人数減少、非正規・派遣職員の人数増加に伴い、職務内容・職務分担・シフトの増加等が正規職員への負担が大きくなってきているため、今後様々の課題を検討していくことが必要である。また、正規職員の休憩時間の確保について意識改革を行うと共に園全体で改善に取り組んでいくようにする。 ・新人職員確保に向け職員にも周知し、実習生や見学者だけでなく学生アルバイトを積極的に受け入れ、新規採用に繋げていくようにする。 ・異年齢交流として、夏休み中の小学生(卒園児)の保育体験を検討していきたい。
友渕児童センター	本年度は、事務所(園長・主任2名)の総交替という大きな変化の中でのスタートであり、戸惑いや難しさも多い一年であった。そのような中でも、子どもたちの安全を第一に考え、日々の保育を大切に積み重ねてきた。 また、職員や保護者との信頼関係の構築を意識し、一つひとつ丁寧に関わることを心がけてきたことで、安心して過ごせる環境づくりにつながったと感じている。 保育や行事についても、その意味やねらいを改めて見直し、職員同士で共有しながら進めることができた。日々の積み重ねの中で、共通理解が徐々に深まっていったことは大きな成果だと思う。 さらに、小学校の教員との交流の機会にも恵まれ、子どもたちの育ちをつなぐ関わりを広げることができた。 保育室に設置した見守りカメラの活用により、子ども同士のトラブルなど、言葉での説明が難しい場面においても状況の把握が可能となり、保護者への説明や理解につながり、円滑な解決に至る場面が多く見られた。 一方で、関係機関(友乳等)との連携については、こちらからの情報発信が遅れる場面があり、今後の課題として残った。また、体制変更の影響もあり、保育の進め方や考え方について、職員間での共有が十分でないと感じる場面も見られた。 【反省】 日々の業務に向き合う中で、目の前の対応に追われ、先を見通した計画的な動きや外部への発信が後手に回ってしまった点は反省すべき点であった。その一方で、職員同士が日々話し合いながら運営を進めることができたことは、この一年の大きな支えであった。互いに声をかけ合いながら取り組めたことは、今後につながる大切な経験であったと感じている。 【改善点(次年度に向けて)】 ・関係機関との連携については、早めの情報共有を心がけ、より円滑な関係づくりを図っていく。 ・保育や行事のねらいについて、引き続き職員間で丁寧な共有し、共通理解のもとで実践していく。 ・小学校とのつながりを大切に、継続的かつ発展的な関わりを深めていく。 ・見守りカメラの活用については、適切な運用を継続し、保護者の安心感につなげていく。 ・業務改善については、子どもへの教育・保育の質を確保しつつ、職員間で話し合いながら無理のない形で進め、職員の離職防止・新規採用にむけて内容の見直しも行う。

コメント(幼保連携型認定こども園2)

成 育 児 童 セ ン タ ー	令和7年度の事業計画として、延長保育時間が18時30分までと30分短縮となることでこれまで以上に質の高い教育・保育の提供をめざし、地域子育て支援の充実、職員間の連携やキャリアアップなどを掲げると共に、広報活動を活発に行い園内外に園のPRに努めた。職員間の連携、仕事の進め方等を見直し働きやすい職場、勤め続けたい職場をめざした。 ○取組、成果について ・昨年度はリーダー職員をフリーとして置くことができたが、今年度は産休に入る職員がいたためフリーのリーダーを置くことができなかったが、クラス同士連携を図り、休暇を取っていた(10年目のリフレッシュ休暇を3名の職員が取得)。 ・昨年度の退職者が1名で職員の体制が非正規をあわせてもほとんど変化がなかったため、行事等は前もって準備ができた。また、退職した正規職員も8月には非正規として再入職し、産休に入った職員の代わりとしてフリーの役割を担え、今年度からスタートした平日の公休や有給休暇もしっかり取ることができた。 ・11月から始まった工事については掘削の音が園内に響く期間が3週間ほど続いたが、0歳児クラスの廊下の窓や掃き出し窓に防音シートなどを貼り対策をした。工事については保護者が集う発表会や保護者会運営委員会等で説明を行いご理解いただけたよう努力をしたことで、3月末までに工事についての苦情等は入らなかった ・介護ポイント事業ボランティアの方が引き続きの花の手入れをしてもらい、常に園庭の花が美しい状態になっている。季節の花を花瓶に入れて飾るなど、園児への環境としても非常に良い。 ・昨年度に続き、中学生の職場体験(中学2年生)だけでなく、家庭科の授業で乳幼児保育という課程(中学3年生)があり、11月中の7日間、1日36名の受け入れを行った。園の様子や園児の様子を知ってもらい、将来の仕事の1つとして考える機会となれば良いと考えている。、高校生の夢体験としてのボランティアは昨年20名だったが今年度は2名の参加だった。 ・外部講師による特別活動(体育(全園児)、英語(4～5歳児)、プログラミング(5歳児)、音楽(3～5歳児))は、子どもたちが楽しみながら取り組み、できることが増える一方で、協調性、共感や思いやる心、コミュニケーション力、意欲や粘り強さ、頑張る力など非認知能力も育った。年長児のプログラミングはタブレットを使用した内容を6回行い子どもたちの興味関心が高く、話を聞いてから取り組む等楽しみながら集中して取り組む様子が見られた。また、子どもたちの意欲や能力を引き出す講師の関わり方からは職員も多くの技術を学んだ。私立保育園連盟の調査研究で音楽についての指導方法を研究することとし、外部の研修への参加ができた。 ・看護師がアレルギー、怪我の対処、AED等の研修を各2回行ったことで全職員が受けることができた。また、5歳児に向けての『命の話』『プライベートゾーン』の講話を行い、園児が心や体について考える時間が持てた。看護師はフレンドリーで、月1回身体測定に出向き、利用者育児での質問や身体的な質問に答え、地域の子育て家庭に貢献した。 ・令和5年1月に採用した非常勤職員は今年度も引き続き午後4時半～6時半の2時間で園児トイレ、廊下、階段、保育室の最終の床拭きをしていただき日中勤務する職員の業務改善となり、書類の作成、制作の準備等に充てることができた。昼寝中の0、1歳児の見守りとして非常勤職員を充て、業務改善を行った。 ○今後の課題 ・全職員が自発的に園全体のことを考えながら日々の教育・保育に取り組めることができるよう今後も職員間の連携を密にしていきたい。 ・教育、保育内容についての話し合いの場を多く持ち、乳児の職員が幼児の内容を知り、幼児の職員が乳児の内容を知り、教育、保育の共通理解を図る。 ・正規職員だけが会議に参加するのではなく、教育保育内容については非常勤職員とも会議等を行い、より良い教育保育ができるように努めていく。 ・園舎増築の際の安全対策を管理職だけで考えるのではなく、職員とともに考え共通理解のもと教育保育を行い、事故のないようにする。 ・増築の行程は全職員に周知し、見通しを持って業務が遂行できるようにしていく。 ・行事については土曜日から平日に移行できるものがあれば検討し、週休2日の実現に向け検討をしていく。 ・動画の作成が主任1人での作成になっているため、得意な職員はどんどんと作業に携わっていきけるようにしていきたい。 ・外部講師の講師からの学びと、園としての思いや意見を交換しながらすすめていけるよう担任間、職員間で特別活動に対する共通理解をする。次年度は体育指導の講師が変更になるためこれまでの良い点は引き続き行ってもらえるよう連携を密にし、新しいことは柔軟に受け入れていけるようにする。 ・キャリアアップ研修で身につけたスキルが、園全体のレベルアップにつながるような取り組みを進めていく。 ・養成校の学生にとどまらず、中高生が将来の職業の1つとして保育教諭が視野に入るような働きかけや受け入れ態勢を整え、職員に・園児の定員設定上、3歳児での1号認定園児の受け入れが難しく、保護者の離職によることとなってしまった。今後は、利用定員に沿って、2歳児での退園があった場合は急いで新入園児を迎えるのではなく、1号認定での入園を希望する園児の枠として残し、3歳児での受け入れができるようにする。 ・職員の休憩時間の確保と、それにかかる人員の確保を行い、休憩がスムーズに行えるように、繁忙期でも休憩が取れる仕組みを構築する。また、休憩ができる環境を作る。
桜 宮 児 童 セ ン タ ー	令和7年度の事業目標として、前年度に引き続き、法人の理念・方針のもと、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき0歳から小学校就学前までの一貫したより質の高い教育保育を提供することを掲げた。 ○取組・成果について ・全職員それぞれ密に連携をとりながら保護者からの理解を得て0～5歳児まで落ち着いた環境で過ごすことができた。 ・6月開催の運動会も2年目となり、子どもたちの取組が無理なく行えるよう前年度から計画性をもって進め、保護者のご理解も得ながら開催できた。また夏期の過ごし方も水遊び的な活動と製作や異年齢交流などの夏期にできる教育保育を展開できた。

コメント(幼保連携型認定こども園3)

桜宮児童センター（続き）	・日々子どもたちが生活する環境を安全に過ごせるよう、危険箇所のチェック等職員で確認し、情報を共有して子ども達が安心安全に過ごせる環境づくりに努めた。ネットワークカメラの設置(8月)は危機管理やヒヤリハットの原因追及などに多大な効果を生み、保護者にもより正確な状況説明ができた。同時に職員間での環境構成の振り返り材料としてより安全な環境づくりを意識できた。事故を未然に防ぐことができるよう職員の意識に繋げるように取り組んだ。 ・年度初め6名でスタートした0歳児は3月には10名となったが、0歳児以外の年齢は年度途中入所の受け入れが進まなかった。 ・防災では、リスクマネジメント委員会を中心に日頃からの訓練や対策等を見直す機会を設けながら、備蓄品や非常時用機器の確認を全職員で行うことができた。 ・前年度に引き続き保護者会との連携を丁寧に行い、保護者会主催のハロウィンパーティや、その収益で移動動物園・おとパパさん太鼓体験などたくさんのイベントの開催ができ、子どもたちにとっても楽しい経験ができた。 ・地域との関係においてボランティアですいかやぶどう、さつまいも、大根などを栽培し、子ども達も貴重な体験ができた。 ・職員の育成については、処遇改善と連動したキャリアアップ研修を3名の職員が受講した。 ・年度途中で職員が入れ替わりながら、新採用非常勤も加わり年度末の退職者はなかった。(正規職員の非常勤職員へ変更有) ・保育参加や体育参観を実施し保護者に普段の様子を見ていただける機会ができ好評だった。職員の有休消化率は、正規職員は35%、非常勤職員は60%であった。リフレッシュ休暇取得者はなかった。 ・外国にルーツのある子ども(家族)の受け入れが増加する中で、対応する職員の配慮(翻訳機の活用、図案での説明など)が多く求められるようになった。「園のしおり」のベトナム語版の作成をした。 ○課題・反省・改善点 ・副園長の職務内容が膨大かつ多岐に渡るため、職務進行のルート(内容により誰が指示するのかを明確にする)を再確認と共に、主任・リーダー職員の職務分担の見直しが必要と考える。個々の職員が理想とする教育・保育感をのびのびと発揮し、それに賛同・共感できる管理職・リーダー職員を育成する。 ・組織図、職務内容を理解し、組織の中でそれぞれの職務に意欲をもって取り組めるムードをつくる。また、非常勤職員の職務も明確にし、クラス運営の一員である旨を全体で理解する必要がある。 ・18:30閉園となったが、残務作業をする職員も多く、引き続き職員の就業時間内での業務の終了を目指し、仕事の段取り等見直し改善を図る。休憩時間をとれるように環境設定を行ったが、職員の意識改革にも改善をしていく。 ・保護者や地域に園の取り組みやその意図がより伝わるように、ホームページには動画のアップ、おたより等の写真や文章内容の充実をはかる。
ひがみや児童センター	○取り組みと成果について ・幼保連携型認定こども園教育保育要領を踏まえた法人の《全体的な計画》に基づき教育・保育を行ってきた。 ・都島第二乳児保育センターとは、行事はもとより、地域の都島地域のお祭りや民生委員主催の地域クリスマス会にも一緒に参加協力をしてもらった。 ・地域貢献では、例年通り近隣病院の待合室に子どもたちの作品を展示。地域支援で都島地域の『スペースゆうゆう』も協力、地域の『演芸会』『ひがみや祭り』『ふれあいフェスタ』参加、勤労感謝では水道局に作品のプレゼント、地域の公園の掃除等行った。都島警察より特殊詐欺被害防止キャンペーンでマーチング依頼が今年もあり京橋のコムズガーデンで演奏を披露することができた。 ・保護者参加行事としては体育活動参観、保育参加、夏祭り開催、運動会、発表会、卒園式等は人数や内容を検討し行い、年長児は遠足で雪滑りにも出かけた。 ・ひまわりの郷の協力を得て、大阪府社会福祉協議会の大阪しあわせネットワークの寄付事業と繋がることができ園児にランドセルをいただくことができた。今後も地域の社会貢献事業に繋がることに敏感でありたい。 ・気になる子どもに関しては、今年度入所の園児であるが保護者との共通理解ができ2名支援に繋げることができた。 ・職員のスキルアップはキャリアアップ研修(10名)、非常勤職員が子育て支援資格を取得。来年度は保育士資格を取得予定。主幹保育教諭がスマイルサポーターを受講。園内で取得職員が3名となる。 ・職員について、昨年は産休職員が年間5名、今年は4名。怪我や体調を崩す職員が4名(労災を受けた職員2名)、入院し手術する職員が1名出た。幸いすぐに復帰できたが職員体制確保は今年も苦労した年となり派遣職員5名で補った。 ・広報では、全国社会福祉協議会の月刊誌『月間福祉』にひがみやとそれいゆが特集された。二園の繋がりがりや日常の活動が紹介された。 ・職員採用では『実習生から採用に繋げる』が目標であるが出来なかったが、今年度は卒園児が実習生となって受け入れた。令和9年度採用に繋げたい。元法人職員を契約職員として採用。在職の非常勤では短時間契約の時間を増やしたり(2名)、派遣職員を園採用(1名)にし、新たな採用ではないが雇用の内容を広げることができた。 ・近年、他市受託児童が増え守口市、吹田市、堺市等今年も4名いた。その為、子どもの出入りも多く大阪市から他市に行く家庭が多くなってきているように思える。(中国、バングラディッシュ、福岡県、愛知県、守口市、吹田市、堺市、大阪市東淀川区、大阪市旭区)退所は11名。途中入所は19名。 ○課題 ・令和8年度は都島友の会95周年を迎え当園は50周年を迎える。その歴史もあり卒園児が親となって当法人にお子さんを預けてくれている。8年度も例にもれず当法人を利用してくれることは私たちの誇りである。また、同施設内のこども発達サポートステーション(50周年)と都島乳児保育センター(60周年)を共に『三園合わせて祝う会』イベントを行い保護者や地域により友の会をアピールしていきたい。 ・幼保連携型認定こども園に移行し5年。2ヵ年計画として令和9年度は第三者評価受審を念頭に置き、これからも、0歳から小学校就学前までの一貫したより質の高い教育及び保育を提供していく。 ・職員については、園の運営や働き方についてなど再度理解する。職員に作業効率、教育・保育の見直し等行い働きやすい環境作りに努めるが、教育保育の従来の大切さもしっかりと守っていききたい。職員の質の向上。 土曜日保育を2園で行っていたが桜宮児童センターも加わり都島第二乳児保育センターで行うこととなった。合同することで職員の出勤数の軽減、有休取得に繋げる。 ・保護者の理解を得るためにも、保育参加、保育参観等を行う。 ・都島第二乳児保育センター、こども発達サポートステーションそれいゆ、ひまわりの郷と関係性を繋げる。 ・今後も地域からも愛される施設を目指したい。

都島乳児保育センター	保育運営・園児関係・事業全体 ・令和7年度4月から、施設長、主任が変わり新体制となった。都島乳児保育センターの保育内容について職員と数回に分け会議を行い保育室の使用の仕方、年間行事等どのようなねらいをもってすすめてきたのかを全体で共有し合った。行事を見直し、開催時間設定の変更など、保育士定着に向けた業務改善の一環として保護者には懇談会などで丁寧に説明を行ない、登降園の時間についても可能な限りご協力いただいた。保護者会の活動については、「夏まつり」「保護者おしゃべり会」を開催し、夏まつりの収益金では、おもちゃの購入もでき、保護者同士の交流にもつながった。家庭の事情により、退園し子どものみフィリピン(母の実家)に引っ越すケース、原因不明の熱や嘔吐がつづき登園がなかなかできないケースもあったが、その都度保護者と連絡を密にし、保護者の希望に沿った支援を優先した。子どもの個別支援については、昨年度に引き続き「カスターネット」の真鍋先生から園訪問を通して気になる子どものかかり方については、「3歳児の進級するイメージを持ち保育内容を考えるのも大事だが、まずは都島乳児保育センターでの2歳児としての生活をしっかり育むことを優先することで、スムーズに次のステップに進むことが出来る、焦らなくても良い」という助言をもらった。日々、子どもの育ちを振り返りながら環境を整えることを重視し、後半の保育に生かすことが出来た。 ・北部こども相談センターより状況確認連絡が2件あった。どちらも、酔っぱらった父親による母親への暴力や暴言だった。子どもに暴力などはなかったが、心理的虐待にあたるといった内容だった。 ・避難訓練では、夏場や冬場の気候を考慮した避難の仕方を、職員全体で話し合い、安全に避難することを意識し行なった。 ・途中入所については、6月から3月までに0歳児8人、1歳児5人、2歳児2人の合計15人となった。内、1歳児が両親ともにネパール人で、保護者とのやりとりは片言の英語やスマホでの翻訳などを使って対応し、個別に関わった。 職員体制・施設管理について ・職員体制については、産育休に入る職員もあり、正規職員が4人、非常勤職員19人、紹介会社から看護師を雇用したが、3月末で退職となった。 ・途中入園対応で非常勤職員保育士2人(内、1人が法人内園の保護者)常勤並みで採用となる。土曜出勤可能な、職員が限られており、都島児童センターでの共同保育となる。 ・職員面談は、年間3回行なった。一人ひとりの意見を聴き、バランスをみながら園運営の改善点を見極めていく。 ・昨年度から「高校生のボランティア体験」参加した学生(大学1年生)が引き続き本人の希望で非常勤として勤務。将来、保育士として勤務希望あり。卒園児(高校2年生)が保育士の養成校進学を希望しているため春休みのアルバイトとして勤務、職員も保育士の魅力を発信する機会になっている。 ・7月からサブスクオムツ、エプロンを導入、保護者の負担軽減、職員の業務負担軽減になり、次年度も引き続き継続する。 施設設備の補修など ・新園スタートから6年が経過、エアコン基盤、玄関門扉のレバーや門扉の滑車などが摩耗し入れ替えをおこなった。玄関のスペースに、雨除け TENT が無いので毎回、ワンタッチ TENT を設置している。職員の業務軽減にしたいため来年度はカーポートの設置を起案する。 ・保護者への連絡ツールのよい子ネットが3月末で配信契約が終わるため、保育業務システム「うえぶさくら」へ移行、テスト配信も無事に終え、次年度から本採用となる。 次年度に向けて ・保育士定着に向け、保護者へのおたより発行、行事担当などねらいや目的を再度確認し年間行事を決める。今後は写真販売業者や保育記録管理システムも見直し、業務改善に向けた見直しを定期的に行う。職場体験、ボランティア、潜在保育士に向けて保育士の魅力をアピールできるよう、HP、Instagram といったツールも併行し活用していく。園全体で危機管理についても常に話し合い避難経路などの確認を行う。令和8年度は、都島乳児保育センター開設60周年を迎える。年間行事も含め、お祝いイベント、記念品など職員でアイデアを出し合いすすめていく。新事業「こども誰でも通園制度」が4月からスタートする。担当保育士は元より、職員全員で新事業についての目的を理解し、歴史ある都島乳児保育センターが安定した運営となるよう、地域の保護者支援を含め、園児獲得に向けた取り組みをする。
都島第二乳児保育センター(続く)	〇取り組み 令和7年度は園長、主任の異動に伴い新体制での保育開始となったが、昨年度を引継いで1歳児では「ゆるやかな担当制保育」を導入し、今までの13人～14人のクラスを8人～9人の編成とし小チーム制で保育をすすめた。昨年度の反省を生かして職員同士が日々、改善点を話し合いながら安全にすすめることができた。効果としては以前に比べ、新入園児が比較的早く園生活に馴染むことができていた様子だったこと、保育士自身も、自分の目指す保育が明確になったようで保育室でのコーナーあそびや、給食、排泄においても少人数制でスムーズに進めることができていた。0歳児クラスでは途中入所を積極的にすすめて、月齢でクラスを二つに分けた保育を行った。2歳児クラスではコーナーあそびを新たに設置し子どもたちが主体的にあそびが展開されるよう、充実したものとなった。 ・運動会については、例年通りひがみや児童センターとの合同開催とし、0歳、1歳児クラスも親子で参加できるプログラムを組み込むことで土曜日の行事の回数を減らし業務改善につながった。 ・土曜保育でも、ひがみや児童センターとの共同保育をすすめて、職員の土曜出勤を減らすことができ、職員同士の交流にもつながった。次年度は桜宮児童センターも含めた3施設共同での保育を実施しさらなる職員の働き方改革を進めていく。 ・発表会では、年齢別にそれぞれの日程を設定しすすめたが、0歳児クラスの開催時期を見直すことで後半の保育に少しゆとりがもてるようになったが、1、2歳児については1月2月の開催になり3か月にわたり発表会にかかることとなり来年度は12月にそれぞれの学年で日程を調整しての開催を検討する。 ・保護者会の活動については、保護者主体になるのは難しいが、今年度の保護者会イベントでは「冬の運動会」を開催し、ひがみや児童センターのホールを借りて開催した。園児数62名中40家庭以上の参加でとても賑やかで楽しい会となった。終了後は2歳児クラスと対象にひがみや児童センター内の見学会を行い進級に向けて保護者も期待を持って見学をしていた。今後も続けていくようにする。 ・昨年に引き続き4階の児童館の子どもたちが、長期休業中を主に昼寝も介助や夕方の時間帯に乳児クラスに入り児童館の子どもたちとかかわる機会を持った。園児たちは年の近い、お兄ちゃん、お姉ちゃんが大好きで保育士の誘導よりも、学童から声掛けされると素直にトイレに行くなど微笑ましい姿が多くあった。 〇今後の課題 ・昨年度に引き続き、南側の近隣の方が、枯れ草が飛んできて気になるという内容で職員に苦情を話していたため、こまめに園周りを確認しながら草抜きや側溝の掃除など児童館職員も一緒に環境整備に努めていく。防草シートを設置し対策を講じた。

コメント(保育所2)

都島第二乳児保育センター(続き)	・1歳児クラスは新入園児数が多いため園生活に慣れることに時間もかかるしかりと子どもはもとより、保護者との信頼関係も大事にしながら職員間で定期的に話し合い保育をスムーズにすすめていく ・2歳児クラスは、少しずつ幼児クラスへ移行できるように後半は学年クラスとしての生活をすすめていく。 ・土曜日は引き続きひがみや児童センターと共同保育を行うお互いの園児についても情報共有ができるよう努めていく。 ・正規職員1名契約職員1名の産休取得があったが、年度途中で保育士1名、子育て支援員1名の採用が整い職員体制に困ることなく事業が継続できた。 ・4月に採用した派遣職員がとても良い方だったので10月より直接雇用とした。 ・保育士の定着率を上げるため業務改善を意識し休憩時間も皆が一定して取れるよう全体ですすめる。 ・職員会議という形式ではなく、普段から職員間で話し合える機会をつくり、それぞれが考えて行動に移せるような環境づくりをおこなう。 ・人口減少により、入園児と働き手も減少していくため今後も選ばれる保育園としての策を考えていく。 ・年度末での退職者がなくアルバイト職員が年度途中で保育士資格を取得し、新年度は正規職員として採用、配属となった。年間を通してインターンシップで実習した学生が次年度はアルバイトで勤務することとなり3年後の職員確保につなげたい。 ・実習生や保育体験の高校生の積極的な受け入れや、児童館の子どもたちが保育園とかかわることが楽しいと感じ、将来は保育士を志望するきっかけとなるような環境づくりを心掛ける。
友洲乳児保育センター	○取組成果について ・施設長、主任の異動で新体制となったが、全職員で協力・分担し、職員間の情報共有に努めた。 ・令和7年度は、受審第三者評価を受審し、外部の専門的かつ客観的な視点から日々の取り組みや支援内容が適切に実践されていると認めていただけたことは施設運営にとって大きな意義を持つことができ、職員一人ひとりの意識向上にもつながった。 今後は今回の評価結果を一過性の成果として捉えるのではなく、継続的にまた、地域社会からより一層信頼され、利用者に安心して通っていただける保育施設運営を行いたい。 ・4月当初は38名スタートしたが途中入所を受け入れ定員を満たすことができた。 ・地域子育て支援として、屋上(室内)開放を行う。年間を通してリピーターも増え、顔なじみになることで育児相談等、話しやすい関係性もできた。また、令和8年度の入所にもつながった。 ・0歳児のみ離乳食を我が子に食べさせる体験をしてみよう。実際保育施設で提供されている給食をみていただくいい機会であった。 ・保護者会と園が協力して、親子行事『ともパラ』を年2回行うことができた。乳児に合わせたゲームや制作・あそびを取り入れる。保護者会主導で企画構成を行い、また職員も就業時間内でサポート、保育園での様子を話しながらよい雰囲気で行うことができた。 ・園生活・子どもたちの成長の様子などの情報を伝える。(各クラス月1回以上を目標。その他、園の行事、職員ページ) ・SNSは保護者の方だけではなく、地域に向けて園のことを知っていただくことの広報の役割を果たしており、園見学に来られた際「HP(Instagram)をみています。」との声も聞かれるようになる。SNSでの発信をし続けた努力の成果を感じられる。保護者の方からも「いつも楽しみにしている。遠方で暮らす祖父母も楽しみにしてる」と、喜びの声をいただき嬉しく思う。今後も無理のない程度に『継続』していくことを大切にしたい。＊個人情報の取り扱いには十分注意していく。 ・乳児期であっても人権に配慮した関わりの大切さ、身体に触れる時は必ず声をかけるなど子どもたちを尊重した保育の提供を行うことを新年度当初より人権研修を実施して確認し合った。人権研修については日々、日常化することで置き去りにならないように常に意識して従事する。 ・合理的配慮を提供する研修も行い、皆が地域の一員としての位置づけを再認識する。 ◎病後児保育の利用実績は50名。利用者は、法人姉妹園・近隣保育園がほとんどであった。ただ、回復期を求めるのではなく病児保育の希望をされる電話も多くあった。都島区内に病児保育が設置されてから利用者数は伸び悩みを感じる。 ○課題・反省・改善点 ・今年度行った、保育士交換や普段からの活発な話し合いの場を持てるようにする。 ・大きな事故や苦情がない一年を過ごすことができた。これは日頃の保育、保護者の方には子どもの様子等、丁寧に伝え信頼関係を深めた結果でもあるので今後も努力を継続する。 ・個々の職員の長所を活かしチームの能力を最大限に引き出し「チームワークの向上」を図り、職員一丸となって日々の保育に従事する。 ・新人職員が入職するため、OJT研修を実施し、先輩職員も更なるキャリアアップを目指す。 ・就業時間内に業務を済ませ、全職員(管理職も含め)定時退勤をする。業務内容は改善しても、子どもたちに提供する保育の質は落とさないよう職員間で話し合い、保育内容を充実させる。 ・有給休暇を積極的に取得し、職員一人ひとりがライフワークバランスを保ち、働きやすい環境を作っていく。 ・職員のメンタルケアができるよう法人内の心理相談員を筆頭に、抱え込まなく過ごすためには？等メンタルケア研修も積極的に開催する。 ・法人95周年記念式典を開催。今までの都島友の会を振り返り、更なる100周年に向けて地域に密着したサロンを開催し、子育てで世代から介護保険を使っていない高齢者が近隣で相談できるような憩いの場を提供していく。 ◎病後児保育利用者数は50名を目標とし、法人各園はもちろん、地域・区外の方も積極的に受け入れをしていく。 ◎法人各園・都島区近隣園への呼びかけを行い、新規登録者・新規利用者の獲得に努める。

コメント(沖縄)

渡・松島保育園

○令和7年度事業計画に対する両園共通の取り組み・成果

- ・保育士職員がホームページ・養成校訪問で積極的に園のアピールを行うことで、両園の一員としての自覚が芽生え、就職見学の職員に積極的にアピールすることができるようになっている。今年度2月に保育士1名が仲介業者ではなく、園見学のみで松島保育園の就職が決まっている。
- ・実習生を積極的に受け入れ、親身になってアドバイスをを行い対応したことで、実習生はスムーズに実習をすすめられ、自信に繋がっていく姿が見られた。両園の保育・行事は先輩保育士が優しくリードして、皆で楽しく取り組んでいることを伝えて、実習生に園の就職アピールを行っている。
- ・特色である郷土文化伝承の琉舞やエイサー、旗頭等に継続して取り組んでいる。他の保育園・こども園が文化伝承の内容を縮小・変更している中で両園は取り組みを続けているので、地域の方から支持を得られている。
- ・英語教室では小学生をはじめ、地域の子どもたちにも学びの場をつくり、保護者から好評を得ている。
- ・那覇市の研修・園内研修をはじめ、研修後は職員の意識が上がり、保育の環境づくり等に積極的にかかわる姿が見られるようになっている。

○令和7年度事業計画に対する両園共通の今後の課題

- ・就職ガイダンスで養成校訪問時に他園が職員で作成したパネルの展示、呼び込みと色々工夫を凝らしていた。次回からは全職員で就職ガイダンスに参加する学生に向けて楽しい取り組みを計画していきたい。
- ・主体的保育の影響で実習生を受け入れる保育園・こども園が少なくなってきていると保育士養成校の実習担当講師が話していた。両園では引き続き実習生受け入れに力を入れること、また実習生が両園での就職に繋がっていただけるように努めていきたい。
- ・文化伝承の一つにウチナーグチ(方言)があり、ウチナーグチを使える職員が減っているので、地域の方に協力を得て、発表会の方言劇以外にも子どもたちにウチナーグチを広げていきたい。
- ・参加型研修は職員間で意見の交換や意思統一でできる機会が増えるので、実技研修をはじめ、グループ研修、安全管理意識研修など実践的な保育の研修もこれからたくさん取り組み、職員の質の向上に努めていく。

○令和7年度事業計画に対する渡保育園独自の取り組み・成果・今後の課題

- ・気になる子への面談を積極的に行い、就学に向けて保護者と一緒に親身になって取り組むことで、スムーズに就学に繋げることができた。那覇市では気になる子の急増に専門家の支援が追いつかず、そのため各園の保育士の特別支援教育に力を入れる形になっている。担任関係なく職員全員で特別支援に取り組むことで、早期発見・本児の課題に気づくことができるようになってきている。これからも職員一人ひとりが特別支援の知識を向上させて、保護者と一緒に園児の支援に努めていきたい。
- ・子育て応援DAYの取り組みを地域に宣伝を行い、2組の親子が楽しく参加。その後参加者が園の入所に繋がったので、これからも力を入れてアピールしていきたい。

○令和7年度事業計画に対する松島保育園独自の取り組み・成果・今後の課題

- ・地域の駐車場に空きがないか連絡を細目に入れ確認を行ったことで、偶然一台分の空きが出たと不動産会社の管理者から連絡が入り、駐車場を確保できた。引き続き、駐車場確保に力を入れていきたい。
- ・今年度からズンバ教室をみわらび館で週2回開き、地域の方の健康づくりの場をつくり、地域貢献を行っている。英語教室は保護者から好評は得ているが、松島保育園は利用者が減っているため、宣伝を行って利用者を増やしていきたい。

○検討会での課題及び今後の取り組み

- ・検討会では渡・松島両園の3～5歳児クラスの入所数が昨今の隣接こども園の入所児童数の増加に伴い、減少傾向にあることを確認し、入所数を安定させること、また両園の収益性をいかに伸ばしていくかが今後の課題であると思われる。今後は0～2歳児クラスに焦点を置き、0～2歳児クラスの入所数を増やしていく。保育単価も年少児の方が高い点も収益性が上がる点と合致する。2歳児までに利用定員数を満たすことで3歳児から隣接こども園に転園する園児がいても3歳児～5歳児クラスまで一定数の園児を確保できると思われる。また5歳児まで継続して両園残ってくれる保護者には子どもたちの成長の過程がわかりやすいように面談や親子行事等を多く取り入れていけるように努めていきたい。また認定こども園移行に向けて両園とも那覇市と協議を進めていく。共有フォルダを利用して書類等を大阪本部と共有し、認定こども園移行も含め大阪本部と連携を図っていく。

(3) 児童厚生施設・子育て支援事業

児童厚生施設-教育クラブ(都島児童センター)

クラブ名	講師	レッスン	時間	対象児童	年間延利用数
英語	2	水曜日	13～18時	幼児～小学生	1,176
絵画	1	火・金曜日	13～18時	幼児～小学生	1,561
バレエ	1	水曜日	13～18時	幼児～小学生	1,392
書道	1	木曜日	14～18時	幼児～小学生	1,326
ピアノ	5	火～金曜日	15～18時半	幼児～小学生	1,095

子育て支援事業の実施状況

	①一時保育事業 (一時預かり)	②地域子育て支援 拠点事業	③病後児保育事業
友渕児童センター		大阪市委託:ひろば型	
成育児童センター		大阪市委託:ひろば型	
都島第二乳児保育センター	大阪市委託	大阪市委託:センター型	
都島友渕乳児保育センター			大阪市委託
渡保育園	法人独自		
松島保育園	法人独自		

①一時保育事業

「すくすく」(大阪市委託事業)

延べ利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
一時預かり事業	70	79	96	120	108	113	125	118	138	143	116	148	1,374

法人独自事業

延べ利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
渡保育園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
松島保育園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

②地域子育て支援拠点事業

センター型-「地域子育て支援センターのびのび」(大阪市委託事業)

地域支援活動	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
回数	21	20	21	22	17	20	22	18	20	19	18	21	239
延べ利用者数	大人	151	162	161	177	123	186	199	140	153	196	149	2,007
	子ども	151	158	161	175	125	188	208	146	167	206	157	2,060
相談・援助活動	基本的な生活	発達・発達	医学的問題	生活環境	育児方法	その他	計						
件数	91	83	14	8	105	87	388						

ひろば型-「フレンドリーともぶち」(大阪市委託事業)

子育て親子交流促進	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
回数	22	20	21	22	17	20	22	18	20	19	18	21	240
延べ利用者数	大人	101	93	135	127	82	117	162	144	134	146	144	1,533
	子ども	107	94	148	134	93	131	187	164	142	156	157	1,678
相談・援助活動	基本的な生活	発達・発達	医学的問題	生活環境	育児方法	その他	計						
件数	264	374	33	37	141	565	1,414						

子育て支援講習等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
回数	4	6	7	8	7	7	6	8	6	7	8	7	81
延べ利用者数	大人	16	21	21	33	22	22	24	25	27	28	32	291
	子ども	11	22	18	35	24	22	25	30	29	29	34	302

ひろば型-「フレンドリーせいいく」(大阪市委託事業)

子育て親子交流促進	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
回数	21	20	21	23	17	20	22	19	20	19	19	22	243
延べ利用者数	大人	212	199	212	261	213	284	332	252	298	316	332	3,280
	子ども	215	203	215	272	205	286	341	248	302	323	331	3,322
相談・援助活動	基本的な生活	発達・発達	医学的問題	生活環境	育児方法	その他	計						
件数	76	42	11	14	18	6	167						

子育て支援講習等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
回数	1	1	2	1	1	2	1	2	1	1	1	2	16
延べ利用者数	大人	6	4	4	1	7	9	12	15	3	5	13	87
	子ども	6	5	4	1	6	9	12	15	4	6	13	90

③病後児保育事業

病後児ルーム「ひまわり」(大阪市委託事業)

定員4名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ利用者数	2	7	4	5	5	5	4	2	2	5	2	7	50

コメント(児童厚生施設・子育て支援事業1)

教育クラブ	○取組・成果について ・利用人数はクラブによって増減は見られるが、講師自身が園児をしっかり指導出来る範囲内で人数を決定している状態である。 ・講師と保護者との連絡も、それぞれのクラブの講師が行うことで定着した。 ・バレエクラブの発表会(ひがみや児童センターにて行う)・ピアノクラブの発表会(都島児童センターにて行う)を3/7(土)の午前・午後に行い、両方のクラブを習っている子どもたちも参加することができ、日頃の成果を見ていただく良い機会となった。 ・習字クラブは、講師の高齢に伴い3月末で終了となった。 ○課題 ・各クラブとも体験してから実際に入会するという流れだが、クラブによっては利用児童がふざけてしまう姿が見られることもあり、担任や事務所が児童の様子を見て声掛けすることが多々見られるので、来年度は保護者の方にもクラブを利用するにあたってしっかり家でも話をしてもらえるように保護者に声をかけていくようにする。 ・習字クラブは終了となるが、令和8年度は就学前の5歳児のみの「文字のおけいこ」として活動していく予定。
一時預かり事業	【年間目標利用者数について】 ・目標数1,300名以上を達成 【利用理由の傾向】 ・どの学年も育児負担緩和で利用される方が多く、全体の2/3を占めている。また、どの学年も就労で利用される方が1/5ほどおられ、0歳児1歳児は、途中入所や新年度入所につながったケースが例年よりも多かった。 ・2歳児は、満3歳入園で幼稚園に年度途中から入園するケースが全体の1/3いた。早生まれ児は、満3歳入園が難しい園もあるようで、3月まで利用されることが多い。 【利用者の居住地域】 ・都島区(73%)北区(7%)城東区(5%)旭区(10%)その他の区(5%) ・都島区内では、本通(29%)友渕(19%)善源寺(10%)内代(10%)中通(9%)高倉(9%)中野(5%)南通(3%)北通(2%)大東(2%)東野田(2%) ・昨年度も聞かれた声だったが、旭区在住の方からの情報として、旭区の一時預かり事業は、休室がほとんど、中央区もどこも受け入れを断られたとのこと。また、都島第二乳児保育センターの評判が口コミ等で良いため、区を超えて利用を希望しているとのこと。 【法人内への進級先について】 ・都島児童センター5名・友渕児童センター1名・桜宮児童センター1名・ひがみや児童センター5名・都島第二乳児保育センター7名・友渕乳児保育センター2名に途中入所、令和8年度入所が15名。利用者の3割弱が都島友の会へ入所につながった。 ・すすく組継続利用者は22名。(利用者の3割弱) 【今後の課題】 ・今年度も毎月の新規受け入れをできるだけ断らずに受けてきた(毎月2名～8名・平均5名)が、後半は0歳児の割合が増え、クラス運営の負担も大きくなったため、1月2月は新規受け入れを止めた。(2月は子育て支援室から気になる親子を受けてほしいとの連絡を受け、緊急に受け入れた。)令和8年度もできるだけ断らずに受け入れていけるよう努めるとともに、関係機関やのびのびとも連携しながら一時預かり事業を展開していきたい。
地域子育て支援拠点事業センター型	【利用状況】 年間登録者144組(うち新規112組)。子育てに関する相談件数422件。毎日の利用者数8組前後。 本年度は新規利用者の来所が継続的に見られ、全体として利用者数は増加傾向となった。第一部を中心ににぎわいがあり、第二部・第三部も安定した利用があった。一方で、時間帯によっては落ち着いた環境の中で個別に関わる時間も確保できた。 【利用者の様子・支援内容】 利用者同士の交流が活発で、子育ての悩みや思いを共有できる場となっていた。育児に関するさまざまな悩みや負担を抱える保護者が気持ちに言葉にし、互いに共感し合う姿がうかがえた。父親の参加も増え、気さくに声をかけ合う様子もあり、利用者同士のつながりが広がっていた。 【事業・取り組み】 ブックスタートや講習会、制作活動、季節行事等を実施し、親子で楽しみながら学べる機会を提供した。講習会「あそびとしつけのコツ」は好評で、交流の促進にもつながった。 【地域支援・相談機関としての取り組み】 本年度は、地域支援の取り組みおよび地域子育て相談機関としての役割強化に努めた。保健福祉センターの保健師や栄養士との連携、都島図書館との取り組みを通して、専門職や地域資源とつながる機会を持った。あわせて、公園や園庭開放への参加、ひまわりネットでの活動を通して、拠点外においても親子と関わる機会を広げた。また、「ハイハイ・よちよちチャレンジ」や「お祭りごっこ」などの行事を実施し、地域の親子が気軽に参加し交流できる場づくりを行った。 これらの取り組みを通して拠点の周知につながり、来所のきっかけづくりとなった。さらに、日常の関わりや相談対応の中で、地域子育て相談機関として保護者の不安や疑問に寄り添い、状況に応じた継続的な支援に努めた。 【地域連携】 3か月児健診へ出向き、利用者への情報提供を行うとともに、ネットワーク会議や都島区子育て支援拠点事業連絡会議への参加等を通して情報共有を行った。 【安全管理】 避難訓練の実施や災害時対応の確認を行い、防災意識の向上に努めた。感染症対策や健康確認も継続し、安心して利用できる環境づくりを行った。 【課題・改善点】 利用者の増加に伴い、より丁寧な個別支援との両立が課題である。また、記録を通して支援内容を振り返る中で、状況の整理や必要な支援の見極めにつながることを実感した。今後は必要に応じて記録を取り入れ、支援の質の向上につなげていきたい。

コメント(児童厚生施設・子育て支援事業2)

地域子育て支援拠点事業ひろば型	(フレンドリーともぶち) 本年度は、Instagramを継続的に投稿し、幅広い周知に努めた結果、投稿をきっかけとした新規利用も増えていた。 行事については、午前または午後のいずれかで開催していたが、利用者それぞれの生活リズムにより参加が難しいとの声もあり、次年度は「午前・午後」それぞれの時間帯での開催を検討し、参加しやすい環境づくりに努めていく必要があると考えた。 また、利用者のニーズに応じた講習として、専門分野の講師を招く取組みを行った。離乳食説明会については、試食会形式への変更を次年度に向けて検討していくこととした。 さらに、友渕児童センターと連携しながら、子育て支援の充実を図ってきた。今後も継続した連携により、利用者が安心して通える場づくりを進めるとともに、入所につながる支援にも取り組んでいく必要があると考えた。 (フレンドリーせいいく) ・0歳児のみの来所日や身体測定日、写真撮影会は来所者が多く、混雑した場合の対策として「利用者が多い場合は1時間を目安にご利用ください」の掲示を行う。掲示を見て交代で・講座は外部の講師、イベントはスタッフが開催すると決めたことで、内容を考える際に分かり易くなった。外部の講師が行う講座については、イベントに比べると申し込みは少ない。イベントで特に人気のあったものは『ハロウィンの撮影会』『クリスマスの撮影会』だった。 1.5m四方に季節の壁面を貼り、その前で撮影するだけのイベントだが初めての来所、父親との来所としては来所しやすいとの声がある。 ・今年度より出産前の方を対象とした「妊婦さんあつまれ～」を月1回開催した。保健センターの保健師さんとの協力もあり、1～2時間来所してくださることで、相談もしやすいようで、毎月2～4人の来所者があり少しずつ定着してきている。 ・スタッフ全員が保育士免許取得者であることから、保護者への対応が良く、他施設では「スタッフへ相談をしてもその返答が答えになっていない」などのクレームがあったようだが、相談に対して答えを出す返答はしておらず、保護者が安心できる受け答えや保護者自身で考え答えが出せるような話し方のスキルがあることで円滑に運営ができています。 ・城東区が主催するわくわく城東フェスティバルの舞台担当として参加し、地域の親子に向けて体操や手遊びを他のつどいの広場のスタッフとともに活動をした。 ○今後の課題 ・保護者同士が自発的に活動ができるきっかけを作り、保護者同士が交流を持てる企画等を考える。 ・授乳用のパーテーションを設置したが、高さが90cmだったため、150cmのものに変更をする(来所者が座っている時は中は見えないが、立ち上がるとパーテーション内を見ることができるよう) ・講座は保護者の求めるものばかりでなく、保護者に知って欲しいと思う内容も考えた上、参加者が増えるよう講座内容やスケジュールを分かり易く広報する。
病後児保育	友渕乳児保育センターのコメント欄に記載

(4)こども発達サポートステーション それいゆ

月別利用延べ園児数(通所支援事業) 就園児療育の状況含む

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
375	333	374	383	319	360	448	365	430	371	361	367	4,486

区別契約児童数(計35名)

都島	城東	鶴見	旭	その他
12	4	9	4	6

職員数(保育所訪問支援・障害児相談支援事業含む)

正規職員					非常勤職員				合計
施設長	児童発達支援管理責任者	児童指導員	保育士	計	常勤並	短時間(契約含む)	公認心理師	計	
1	2	1	7	11	2	6	1	9	20

令和8年3月31日現在

固定資産取得価格一覧

摘 要	金 額
ノートパソコン 2台	488,400
0 件	488,400

主たる修繕

空調室内機洗浄

障害児相談支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
サービス利用計画書作成 モニタリング件数	24	4	4	7	4	18	17	9	5	4	8	21	125

保育所訪問支援

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
サービス利用者数	1	5	3	1	0	3	5	1	3	1	1	5	29

大阪市障がい児療育等支援事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
サービス利用者数	1	1	0	2	1	1	1	1	2	1	2	1	14

こども発達サポートステーションそれいゆ

【取組・成果】

○通園児数等

令和6年度の新入園児は3名、在園児と合わせて20名でスタートした。定員数(30名)に対して大幅に減少したことから、都島児童デイサービスで実施していた「併行通園(児童発達支援)」をそれいゆで実施することとし、法人内の認定こども園を中心に周知したことや「大阪市障がい児等療育支援事業」による訪問により、認定こども園等に通園している発達障がいのある児童に対する療育ニーズに対応した。

しかしながら、併行通園は週1～2回、短時間(1時間30分程度)の療育であることから、毎日通園と合わせて「1日当たりの平均通園児数」が年度当初の計画と比べて大幅に減少、「障害福祉サービス等事業収入」が大幅な減収となった。

令和6年度 契約児童数: 毎日通園31名 併行通園2名(土曜のみ)

延べ通園児数: 5,540名 1日あたり平均通園児数:22.7名

令和7年度 契約児童数: 毎日通園21名 併行通園14名

延べ通園児数: 4,486名 1日あたり兵器通園児数:18.9名

それいゆの経営改善策として、事業の効果的・効率的な運営を図るため、都島児童デイサービスを廃止(令和8年1月31日付)、それいゆで「放課後等デイサービス」を実施することで事業統合を行った。

○療育

国が定める「児童発達支援ガイドライン」に基づき、「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域等を盛り込んだ「個別療育支援計画」を作成し療育を行い、合わせて下記の療育に取り組んだ。

- ・専門的療育: 言語聴覚士、作業療法士に、心理士による専門的療育。
- ・体育指導: 体育指導の講師により体の動かし方を指導。職員に身体を動かす際の補助の仕方等を教授。
- ・食育: 簡単なクッキングや、園庭で育てた苆やきゅうり、さつま芋、トマト等を育て収穫する楽しみを経験した。直接、食材に触れることで、普段は食べられない野菜を食べる姿が見られた。

○保護者支援

- ・学習会: 保護者向けの学習会を8回実施した。

テーマ: ・それいゆの療育、ポーターチェックリスト、サポートブック、食育について

・コミュニケーションの発達と支援、視覚支援、就業準備プログラムについて

・体験談を聞く会(卒園児保護者)

- ・懇談会・クラス会:

懇談会を9・3月、クラス会を6・11・2月に開催、「個別療育支援計画」の評価等、園での生活を保護者に説明。

- ・保護者からの質問等

「連絡ノート」や必要に応じて電話で相談や質問に対応。1～2週に1回ブログを更新し、保護者への情報提供。

○主な行事

- ・家族ふれあいDAY(5月)

新園児と在園児、その家族と一緒に遊びながら、それいゆでの生活を知っていただき、家族の交流も図った。

- ・秋のがんばるDAY(9月)

舞洲障がい者スポーツセンターで、親子と一緒に運動やスポーツを楽しんだ。

「駆けっこ」「パラバルーン」「ボウリング」「大型トランポリン」「プレイルーム等、思い思いに体を動かして遊んだ。

- ・同園会まつり(10月)

在園児、卒園児とその家族、ひがみや児童センターの園児等、約130名が参加し、賑やかな1日となった。

○職員配置

指定基準の配置に加え、「児童指導員配置加算」「専門的支援加配体制加算」が取れる職員を加配。

○職員のスキルアップ

資格職員の確保と療育スキルの向上のため各種研修や講習会の受講を進めた。

主な受講研修 ・児童発達支援管理責任者基礎研修(1名) ・相談支援従事者初任者研修(1名)

・強度行動障がい支援者養成研修(基礎:1名)(実践:1名)

・新版K式発達検査講習会(初級)(1名) その他、「インリアル・アプローチ研修」等

○感染症対策: 園全体の消毒や、外部からの入室時に手を消毒する等を継続している。

○ひがみ児童センターの園児との交流(「月刊福祉」で紹介)

【今後の課題】

- ・事業統合による収支状況(上半期:4～9月)の検証
- ・児童発達支援センターの中核的機能の取組み。
- ・家族支援の取組み(ペアレント・トレーニング等)
- ・児童発達支援管理責任者等の確保と療育スキル向上。
- ・報酬改定等に伴う事務の増に伴う業務の効率化。
- ・令和9年度報酬改定の状況注視

障がい児相談支援事業
【取組・成果】 ・相談支援専門員は児童発達支援(療育)との兼務であるため担当できるケースに限界があるため、令和8年2月に「相談支援専門員」を1名増員し、合計3名配置とした。相談件数は令和6年度と比べ約1割増(令和6年度112件 → 令和7年度125件)。 ・保護者の方やお子さんの状況に合わせて、区役所(子育て支援室)や学校等との連携し、ケース会議を行いながら、支援計画の作成やモニタリングを実施するとともに、家族支援に向けた情報共有や機関連携について協議を行った。 【課題・改善】 ・受給者証の更新時期とモニタリング時期が3月と9月に集中することから相談支援に係る業務が繁忙となっていることから、都島区役所に改善を求めた。区役所でも同様に申請業務が集中していることから改善に向けた検討を行うこととし、申請時期が分散するよう、保護者に対して申請の勧奨時期を早める対応をしていただいた。現時点で効果はみられないうが令和8年度の状況を見極めていく。
保育所等訪問支援事業
【取組・成果】 ・令和7年度は契約が8件、訪問支援員(心理士)が小学校や保育所へ年間で29件の訪問を実施。令和6年度(13件)と比べ、契約件数、訪問件数共に増加した。それいゆに通園していた児童や、それいゆが相談支援を担当している児童、巡回相談から関わっている児童がおり、事業の評価や相談支援との連携がしやすかった。 ・訪問先は地域の小学校が3件、法人の児童センター2件であった。所属先を訪問して行動観察することで所属先と児童の様子や特性を共有し、支援方法の提案を行った。 ・訪問実績は令和7年度が29件あり、令和6年度(13件)と比べ増加している。また年度初めや訪問先の行事の時期に訪問が増える傾向がある。
大阪市障がい児療育等支援事業
【取組・成果】 ・療育手帳や受給者証の交付は受けていないが、発達に課題にある児童を対象に、訪問支援員(心理士)が保護者や保育所等の職員を訪問等による相談やアドバイスをを行うことで必要な療育に繋げる事業として、令和7年度も大阪市の受託を受け実施した。前年度からの登録者21名に加え、11名が新たに登録し合計32となった。今年度末で卒園となったり、年度内に福祉サービスに繋がったのは14名、訪問療育は14件実施した。 ・引き続き、法人施設を中心に保護者や保育園から申し込みを受け日程を調整し、順次巡回相談の支援に取り組んだ。 ・現場の職員が児童に対する対応の困りごとや児童の特性や園生活での支援方法などのアドバイスを受けることで、児童が園生活を過ごしやすく安定することにつながっている。 ・今年度は保護者を通さない所属園からの依頼が2件、保護者からの依頼が12件であり、令和6年度に引き続きひ保護者の増加が見られた。所属園と連携をしながら保護者支援を行い、より園児の生活の安定につながった。 ・本事業を利用後、それいゆの療育支援(併行通園)に繋がった件数は3件あり、他の福祉サービスに繋がった件数は5件あった。

(5) 児童発達支援・放課後等デイサービス

＜都島児童デイサービス＞

月別利用延べ園児数(児童発達支援) * 令和7年4月1日より「それいゆ」で実施

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

区別契約児童数計(0名)

都島	城東	鶴見	北	その他
—	—	—	—	—

月別利用延べ園児数(放課後等デイサービス)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
50	53	68	69	69	60	59	44	51	41	43	61	668

区別契約児童数計(13名)

都島	城東	鶴見	北	その他
13	0	0	0	0

* 令和8年2月から「それいゆ」で実施

職員数

正規職員				非常勤職員			合計
児童発達支援 管理責任者	保育士	その他	計	常勤並	短時間	計	
1	2		2	0	3	2	4

令和8年1月31日現在(2月から「それいゆ」で勤務)

主たる修繕・整備等

特になし

コメント(児童発達支援・放課後等デイサービス)

・「児童発達支援(併行通園)」については「こども発達サポートステーションそれいゆ」で実施した(それいゆに記載)。

・放課後等デイサービスでは、小学校1年生から6年生までの13名が利用。令和6年度は、社会的な自立に向けた力をつけていくことを目的とし、学習中心ではなく総合的な療育内容(「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域に)に沿った内容に変更し、個々に合わせて支援を行った。

・令和8年1月31日付けで事業所廃止し、2月2日から「こども発達サポートステーションそれいゆ」で放課後等デイサービスを開始。

(6) 友渚地域在宅サービスステーションひまわり

職員数(パート含)

施設長	センター長	生活相談員	看護職員	介護職員	介護支援専門員	その他	計
1	1	1	2	10	3	10	28

令和8年3月31日現在

◆デイサービス事業

(延件数)

事業内容	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
定員(人/日)	25	20	25	35
通所介護延べ利用者数	4,919	5,308	5,419	6,866
通所介護加算内容	入浴加算	4,042	4,552	4,588
	個別機能訓練加算		3,865	4,824
	中重度者ケア体制加算	4,810	476	546
	サービス提供加算	4,919	5,308	5,419
介護予防通所介護延べ利用者数	437	595	534	452
介護予防加算内容	運動機能向上加算			
	サービス提供加算	437	595	534

◆在宅介護支援サービス業務

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
相談実績	35	31	30	21
内訳	来所	2	1	1
	電話	23	20	18
	訪問	10	10	4
	その他	0	0	0

固定資産取得価格一覧

摘要	金額
ノートパソコン 4台	761,200
1 件	761,200

主たる修繕

エレベーターバルブユニット交換
浴室窓レバー交換

コメント(デイサービス・在宅介護支援サービス)

取組み結果

令和7年度は、1日利用人数23.2人を目標にスタートした。しかし居宅支援事業所への営業活動を行うものの、上半期の平均利用人数は20人前後であった。10月にはいり、区内のあるデイサービスが11月末に閉鎖になるとの情報があり、その事業所を利用していた方からの利用の申し込みが多数あり、結果的に15名の新規の利用者の獲得となった。また、急な依頼、困難なケースを受け入れたことにより、他事業所のケアマネとも信頼関係も深まり、さらなる利用者獲得にもつながることができた。結果的に令和7年度の新規利用者数は56名、利用中止者22名、一日平均利用者数は22.1人となる。3月末時点での利用登録者数は80名。

また、利用人数の増加に伴い、12月1日付で利用定員を25名から35名に変更した。

11月5日の運営指導の結果、文書指摘はなかったが、口頭指摘のあった書類の作成に取り組んだ。

柔軟な受け入れ態勢の強化

引き続き、利用困難と思われる利用者についても、必ずお試し利用を受け入れている。11月の急な受け入れをおこなうことで他事業所のケアマネージャーとの信頼関係を深めることができた。毎月コンスタントに新規利用者の受け入れたおこなわれている。

活動内容の周知

毎月作成している、ひまわりだよりを各事業所・利用者に配布し雰囲気を与えている。施設前の掲示板にも日々の活動を展示しており、通行人が足を止めてみていることもある。また、ホームページやInstagramでも日々の活動を掲載し、より多くの方にみていただけるようにしている。

地域との関係のアプローチ

毎月1回行っている「おつたち」食事サービスは、日曜日を除く6回実施し、延べ24名の地域住民に参加してもらった。洗濯やブローを手伝ってくれるボランティアは継続してくれており、夏祭りの際もお手伝いに来てくれたりと地域とのつながりが強化された。また、ボランティアの特技を活かしたイベント(俳画、クラリネット演奏、二胡演奏、サックス演奏など)を開催し、利用者を楽しませることができた。

高齢者施設との連携

4月に訪問介護の事務所が友渚に移転したことにより、職員の協力体制を構築することができた。具体的には、訪問のスタッフがデイの入浴介助や食事介助に入ったり、フロアの見守りをおこなったりしている。今後も、通所、訪問、居宅、特養互いに協力しながらよりよいサービスの提供をすすめていく。

防災・事故対応

災害時でも対応できるよう訓練を実施し、備蓄品を購入。福祉避難所として機能する体制を整え、非常時でも利用者を守る準備が整った。

職員体制

12月1日付で訪問介護責任者がセンター長に就任し、通所・居宅・訪問の管理をおこなうこととなる。また令和8年1月付で契約職員1名が正規職員登用となる。

○来年度に向けての課題

利用者の増加に対応するため人員確保が課題。安定した人員体制を築くため、チラシの配布等採用活動を強化する。また、職員紹介制度を啓蒙し、新たな人材の発掘をおこなう。

隣の福祉会館への営業、居宅介護支援事業所周り、チラシの活用等とおして、新規利用者の獲得を目指す。

○訪問介護ひーぐるま

職員数(パート含)

管理者	サービス 提供責任者	介護職員	その他	計
1	3(1)	3	1	7

令和8年3月31日現在

◆訪問介護事業

内容	令和5年度	令和6年度	令和7年度
定員(人)	40	40	40
契約者数(3/31時点)	51	52	50
身体介護利用回数	1,653	1,723	1,644
生活援助利用回数	2,946	3,187	2,644
自費サービス延べ利用回数	254	187	219
利用回数計	4,853	5,097	4,507

固定資産取得価格一覧

摘要	金額
ノートパソコン 4台	717,200
1 件	717,200

主たる修繕

各所修繕

コメント(訪問介護)

○訪問件数減少の主な要因分析

- ①人員構成の変化と稼働制限：年度初頭にフルタイム訪問介護員1名がデイサービスへ配置(異動)となった。その後、新規採用活動により2名の訪問介護員が入職したものの、勤務希望が「週3回/1日4時間」「週2回/1日3時間」と短時間であったため、異動した訪問介護員の訪問(フルタイムの稼働枠)を完全にカバーするには至らなかった。
- ②管理者交代に伴う新規受入の一時制限：12月付で管理者が交代した。従来管理者がセンター長としての管理・統括業務を優先できるよう、従来管理者が担当していた訪問を他の訪問介護員に受けてもらうよう手配し、訪問件数をできるだけ抑制した結果、一時的に新規利用者の受け入れが困難な時期が発生した。
- ③利用終了と新規ニーズのミスマッチ：訪問日数の多い(高頻度利用)利用者のサービス利用が終了した際、その訪問をカバーするまでに相応の時間を要した。現在、新規依頼は「要支援」や「生活援助(週1～2回程度)」などの比較的軽度なニーズに偏る傾向があり、件数の回復・維持に時間を要する要因となっている。

○他事業所との連携・協力体制の構築

- 法人内の高齢3施設(デイサービス・特別養護老人ホーム・訪問介護)が密接に交流を深め、互いの資源(人材・設備・情報)を有効に活用しながら、サービス品質の向上および非常時対応に努めた。相互協力の具体的な実績は以下の通り。
- ・研修・情報の共有:特別養護老人ホーム(特養)で開催された専門研修へ当事業所の管理者が参加。受講して学んだ研修内容について、事業所内で資料等を回覧して全訪問介護員への周知徹底および知識の共有に努めた。
 - ・通所介護への相互サポート:デイサービス(通所介護)の繁忙時間帯(入浴や食事の時間帯など)において、訪問介護より柔軟にヘルプに入り、他部門の円滑な運営を支えた。
 - ・人材の有効活用と就労支援:訪問介護で新たに勤務を開始した登録ヘルパーのうち、自動車の運転が可能な職員を送迎人員として通所介護へ紹介し、法人内での円滑な就労に繋げた。
 - ・緊急・非常時対応:通所介護の職員が急な体調不良等で欠員となった際、送迎業務のヘルプ依頼に対して訪問介護から職員を派遣し、サービスの維持運行に貢献した。
 - ・相互の利用者紹介:訪問介護の利用者のうち、通所介護の利用を希望された方に対して法人内の「ひまわり」を紹介し、スムーズな新規受け入れ・利用開始へ繋げた。
 - ・密な情報共有体制:訪問介護と通所介護の両サービスを併用されている利用者について、日々変化する体調やADL(日常生活動作)等の情報を職員間で細かく共有し、一貫した支援を提供した。
 - ・法人行事への協力:特養における施設イベント等において、「友渕」として訪問介護事業所から職員が自発的に参加し、イベント運営の協力およびサポートを行った。

○新管理者体制への刷新に伴い、単一事業所に閉じない「法人職員としての意識向上」と「安定的かつ高品質なサービス提供」を目指し、各種施策を実施した。

- ・新管理者体制への移行と組織意識の周知:訪問介護員の通所介護への異動に伴い、業務調整を行った関係上、センター長としての管理体制移行(12月からの変更)に一部スケジュールの延期が生じたが、事前の円滑な引継ぎにより滞りなく移行した。単一事業所の視点に留まらず、デイサービスへの入浴・食事ヘルプ等を実務レベルで継続することで、法人として支え合う「サポート体制」の基盤は着実に構築されつつある。
- ・定期的な内部・法定研修の実施:毎月「第2木曜日」を全体研修日と定め、法定研修を含む内部研修を計画的に実施した。また、特養研修への管理者参加および資料回覧による共有を継続し、事業所全体のスキルアップに努めた。
- ・資格取得・キャリアアップ支援:介護支援専門員(ケアマネジャー)資格を保有する訪問介護員が更新研修を受けることになった際、その受講費用を全額法人にて負担し、有資格者のキャリア継続を積極的に後押しした。
- ・迅速な情報共有と風通しの良い職場づくり:利用者のサービス提供状況等について日頃から情報共有を行うとともに、LINE上での連絡事項確認・情報共有用スペースを設置。これにより常に最新の情報をいつでも確認できる環境を確保した。また、日々のちょっとした疑問や利用者への課題などを訪問介護員が気軽に発言・相談できるオープンな雰囲気づくりを事務所内で徹底した。
- ・有給休暇取得率ほぼ100%の達成:当事業所はパート職員や子育て世代のメンバーが多く在籍している。お互いの家庭環境や状況を尊重し、突発的な家庭の用事等が発生した際にもシフトを相互にカバーし合える職場風土が根付いているため、有給休暇の取得率はほぼ100%を達成した。これにより、ワークライフバランスが極めて良好に保たれている。
- ・ファン付きウェア(扇風機付きベスト)の支給:夏季における訪問介護員の身体的負担軽減および熱中症予防対策として購入。移動時や訪問先での身体的労力を大幅に緩和し、安全な労働環境を確保した。

○来年度に向けての課題

1. 訪問介護員の確保と定着に向けた職場環境の刷新

事業収益の安定と規模拡大に向けた最優先課題として、訪問介護員の確保に注力する。採用活動の強化に加え、既存職員が安心して長く働き続けられるよう、労働条件の改善と柔軟な勤務体制の導入を推進する。職員一人ひとりのライフスタイルに寄り添った「働きやすい職場」を構築することで、安定的なサービス提供体制を確立する。

2. 専門的ニーズへの対応と地域連携の強化

新規利用者の獲得に向け、地域のケアマネジャー等との連携を強化し、営業活動を戦略的に展開する。特に、住み慣れた自宅での最期を支える「看取り対応」の体制を充実させ、専門性の高いニーズに応えることで、地域における唯一無二の信頼獲得と利用者数の増加を図る。

3. 友渕拠点を軸とした地域包括ケアの推進

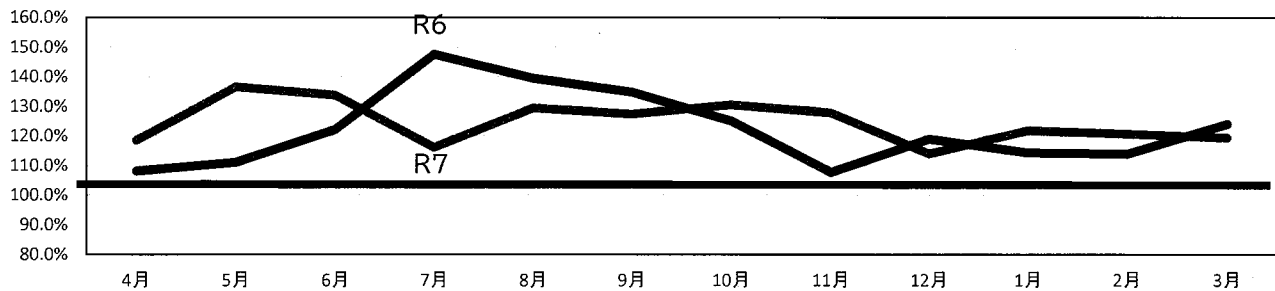
友渕への事業所移転を契機に、通所介護や居宅介護支援との相互連携をさらに深化させる。拠点統合による業務の効率化と人員の最適配置を進め、多職種が一体となって質の高いサービスを提供できる体制を整える。地域貢献活動を通じて住民との絆を深め、友渕エリアにおける福祉の拠点としての役割をより一層強固なものにしていく。

(7) 特別養護老人ホーム ひまわりの郷

○短期入所生活介護事業（年間延利用者数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6延利用者数	292	310	330	412	389	364	349	291	332	319	287	346	4,021
R6稼働率（%）	108.1%	111.1%	122.2%	147.7%	139.4%	134.8%	125.1%	107.8%	119.0%	114.3%	113.9%	124.0%	122.4%
R7延利用者数	320	381	361	324	361	344	364	345	318	340	304	333	4,095
R7稼働率（%）	118.5%	136.6%	133.7%	116.1%	129.4%	127.4%	130.5%	127.8%	114.0%	121.9%	120.6%	119.4%	124.7%

短期入所稼働率



コメント（短期入所）

短期入所の稼働率は、年間を通じて前年(R6)を上回る水準で推移しており、安定した利用が確保できています。季節変動はあるものの、全体として高い需要が続いた。高稼働が続く一方で、繁忙期の受け入れ調整や職員負担の平準化が課題となっている。利用ニーズに応じた柔軟な受け入れ体制の維持と、負担分散のための運用改善が求められる。

○社会貢献事業

コメント（社会貢献事業）

社会貢献事業では、生活課題を抱え、制度の狭間におられる要援護者に対して、相談活動をおこない必要に応じて経済援助を行うことで、自立生活を支援している。財源は、府下の特養から集められた拠出金をもとに、現物給付を行っている。関係施設との連携により、要援護者の連絡(情報)が提供される。今般の新型コロナウイルスによる影響により、新たな生活課題も生じてきていると思うが、社協の「生活自立相談窓口」なども充実しているためか、相談件数が減ってきているのが現状である。継続的に地域の方への事業の周知を行い、更なる事業の認知度の向上をはかることが課題である。

3. 公益事業

(1) 居宅介護支援事業

職員数(パート含む)

施設長	管理者	介護支援専門員	計
1	1	2	4

令和8年3月31日現在

介護予防サービス計画（ケアプラン）対応延べ件数

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
介護予防支援プラン	269	265	328	410
初回加算	3	5	13	11

介護サービス計画（ケアプラン）対応延べ件数

介護度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
要介護1・2	547	451	436	402
要介護3・4・5	320	265	227	210
合計	867	716	663	612
初回加算	10	11	17	10
退院退所加算	1	0	0	0
入院時情報連携加算	0	3	4	0

コメント（居宅介護支援事業）

1. 人員体制と運営状況

令和7年度の期首は、管理者を含む3名(常勤換算2.4名)体制でスタートした。年度途中の6月に1名退職があったが、派遣業者の協力を得て速やかに介護支援専門員を確保することで、利用者様へのサービス提供に支障をきたすことなく継続することができた。一方で、派遣体制からの早期脱却を目指し、求人チラシの配布等の採用活動を精力的に行ったが、本年度中の自社職員の増員には至らなかった。デイサービスの利用者獲得を加速させるためにも、安定的な人員体制の構築が引き続き最重要課題となっている。

2. 利用状況と今後の戦略

現在、地域包括支援センターからの依頼が安定しており、全体の件数に対して要支援利用者様の割合が高いことが本事業所の特徴となっている。今後の健全な事業運営および収益性の向上を目指し、地域包括支援センターとの連携を一層深めつつ、要介護利用者様の受け入れ比率を段階的に高めていく施策を講じる。

3. 関連施設・事業所との連携

法人内の各事業所(デイサービス、訪問介護、特養)との連携を強化し、新規利用者様に対しては積極的に体験利用を促進するなど、グループ一体となったサービス案内を徹底した。また、利用が定着されている方には、利用頻度の向上(稼働率アップ)に向けた声かけを継続している。

4. 業務効率化と地域貢献

現場の支援体制を支えるため、空き時間を活用してデイサービスの配膳、朝の受け入れ、見守り、施設周辺の清掃などのフォロー業務を積極的におこなった。スタッフ間の相互補助により、限られた人員での柔軟な運営体制を維持している。

5. 今後の展開

区内の他事業所との情報交換や新規事業所の見学を継続し、常に最新の地域情報を収集することで、ケアマネジメントの質の向上に努める。地域に必要とされる事業所であり続けるため、人員確保と並行して、質の高いサービス提供体制を構築していく。

(2)比嘉正子地域貢献事業研修センター

職員数

正規職員(嘱託含む)	非常勤職員
相談員	
(1名兼務)	

子育て・障がい・介護なんでも相談室「ひまわりネット」

相談受付		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	電話	4	7	3	4	6	8	6	5	3	3	4	3	56
	メール	1	1	1	1	1	1	1	3		5	5	1	21
	来所	1	2	3		1		5			2	2		16
	家庭訪問 伴走	3												3

研修・講座

在宅子育て支援関係	40
社会福祉関係	6
職員(保育)研修関係	1
防災関係	0

災害支援(11ね!物産展)

実施回数	0回
—	—

福祉人材登録

登録者数	0
雇用者数	0

固定資産取得価格一覧

摘要	金額
なし	
件	0

主たる修繕

屋内消火栓ホース及び標識更新工事
非常灯器具取替え工事

コメント(研修センター)

すべての人が健康で文化的かつ快適な生活が守られ、豊かな人間生活の実現を目的としている。
目標としている「専門機関への橋渡し役となり、より数居の低い地域の相談窓口として「心」の居場所」となり、世代を超えた居場所を目指し、地域の開かれた社会的資源となれるよう取り組みたい。

○取り組み

- ・人材育成として、大阪府民間社会福祉事業振興基金助成(アウトリーチ型研修助成事業)を受け、社会福祉の理解を深める、防犯、コミュニケーションなど分野で実施。
- ・主な相談内容:心の病気・生活不安・育児不安。相談ツールとしてメールや電話相談も可とする。
- ・関係機関との連携⇒複合的課題を抱える家族(世帯)への支援:都島区要保護児童個別ケース会議
生活支援課:生活保護申請の援助、都島区生活自立相談窓口
子どもの救済:都島区虐待担当・子ども相談センター
社会貢献事業:都島区社会福祉協議会
- ・広報活動⇒ホームページ・facebook活用し、ひまわりネットの活動を発信。
- ・在宅子育て家庭「子どもと一緒にしろくまヨガ」12回(月2回)
- ・「いいね文庫」は、ボランティアの協力もあり研修センター2階全てに拡大し、在宅子育て家庭の親子や地域の児童(小中学生、不登校児童)も利用し、親子での参加も多くなっている。地域やこどもホスピスに絵本の貸し出しも行い好評である。
- ・数居の低い居場所づくりの一環として、カフェひだまりを開設し、ワークショップなどの場所にもなっている。

○成果

- ・精神疾患や生活困窮の相談も長期間に及ぶが、思いを聞いてもらえる場所として定着している。
- ・コロナ以後再び「カフェひだまり」で地域の方の活動の拠点になりつつある。

○課題

- ・相談員の拡充

(3) 保育士等キャリアアップ研修事業

職員体制

正規職員	非常勤職員
0	1

講師数

外部講師	内部講師
7	0

キャリアアップ研修受講者数（各分野 定員50名）

分野	外部		内部		計	
	受講者数	修了者数	受講者数	修了者数	受講者数	修了者数
乳児保育	24	24	6	6	30	30
幼児保育	13	12	2	2	15	14
障がい児保育	17	17	7	7	24	24
食育・アレルギー対応	30	29	5	5	35	34
保健衛生・安全対策	14	13	2	2	16	15
保護者支援・子育て支援	19	18	6	5	25	23
マネジメント	21	21	3	3	24	24
計	138	134	31	30	169	164

固定資産取得価格一覧

摘要	金額
なし	
0 件	0

主たる修繕

各所修繕

コメント（キャリアアップ研修）

○取組み

保育施設等に求められる役割も多様化・複雑化する中、保育教諭・保育士にはより高度な専門性が求められとともに保育士の処遇改善においても研修が必須となってきた。

大阪府からの指定をうけ、各分野、充実した講師陣を迎え、より専門性の高い保育士・保育教諭等の育成、スキル向上を行うため本研修会（専門分野別研修6分野＋マネジメント研修）を以下の内容で実施した。

- ◆募集定員…5分野各35名、2分野各70名
- ◆受講料…1分野あたり15,000円（資料代・消費税込み）※複数分野の申し込み可
- ◆研修期間…令和7年5月10日～9月1日
- ◆修了証について…各分野講義終了後に発行

○成果

7分野合計169名が受講し、164名に修了証を発行。

○課題

研修担当職員の充実

○反省・改善点

- ・受講申込後のキャンセル対応として受講料を振込みにし、ほぼキャンセルは解消できた。
- ・Eラーニングで受講しやすい研修形態を試みたが、受講者アンケートでは対面講義の希望が若干多く、令和7年度再度Eラーニングの受講動向を鑑み、令和8年度は対面講義とする。
- ・受講生の減少が予想されるので令和9年度以降、開催の可否の検討が必要である。
- ・3階研修室のインターネット環境としてWi-Fi導入を希望する。
- ・修了証の公印を電子印にしたい。
- ・長机2台破損のため購入が必要。
- ・受講キャンセル時の返金における事務手数料の受講者負担を明記する必要がある
- ・受講者のレポート提出の決まりの理解不足が多く対応に手間がかかる。

4. 収益事業

(1) 賃貸ビル(福祉ビル)

ビル1階部分をテナントとして遠藤クリニックに賃貸している

固定資産取得価格一覧

摘要	金額
なし	
0 件	0

主たる修繕

各所修繕

コメント（収益事業）

福祉ビルは、テナントとして活用し、遠藤クリニックへ賃貸した。

5. 研修報告

《人権研修》

	主催者	研修日	研修タイトル	参加人数
児童・高齢	大阪府地域福祉推進財団	6/9	尊厳(人権の尊重)	1
	チャイルドネット大阪	6/13	子どもも大人も幸せで居心地のよい園をつくるには	2
	チャイルドネット大阪	6/27	性の多様性から『じぶん』について考える	1
	城東区子育て支援室	7/2	重大な児童虐待ケースをなくすために	10
	那覇市こども発達支援センター	7/13	発達障害、いわゆる「愛着障害」に対する理解と支援	8
	大阪市私立保育連盟	7/17	児童虐待から考える～家庭理解を深める～	1
	成育児童センター保護者会運営委員会	9/3	おうち性教育	4
	大阪市私立保育連盟	9/16	性の多様性を知り自尊感情を育てる保育	1
	大阪府私立幼稚園PTA連合大会	9/10	ちがいを楽しむ	1
	チャイルドネット大阪	10/7	インクルーシブ保育・教育を創るには	1
	那覇市役所	11/6	保育施設のパワーハラスメント	1
	大阪府福祉部障がい福祉企画課権利擁護グループ	11/6,11/14	令和7年度大阪府障がい者虐待防止・権利擁護研修	19
	大阪市社会福祉協議会	11/10,11/11	福祉現場における家族や保護者からのカスタマーハラスメント等への対応	8
	那覇市役所	12/4	保育の中のこどもの声	2
	那覇市役所	1/16	こども基本法に関すること	2
	大阪府社会福祉協議会保育部会	1/20	人の温かさ×デジタルの力	1
	社会福祉法人大阪市社会福祉協議会	1/28	インターネット上の人権被害について	1
	那覇市役所	2/17	職員のための虐待防止研修	1
	法人内	施設長会議	法人及び各施設に関する人権について	適時
		職員会議	施設に関する人権について	適時
		役員会議	法人に関する人権について	適時

《役員研修》

	主催者	研修日	研修タイトル	参加人数
役員	大阪社会事業経営協会	4/21	福祉・医療業界に求められるBCPのブラッシュアップ	2
	大阪府社会福祉協議会経営者部会	6/11	サイボウズ流！チームワークあふれる社会福祉法人のためのふくしDX	1
	大阪社会事業経営協会	10/16	障がいのある子どものアドボカシーの理論と実践	2

《外部研修》

	主催者	研修日	研修タイトル	参加人数
児童・高齢	ウェルネス	4/2	補助のつき方について	7
	大阪青年経営者会	4/23	研修会「組織を活性化し地域に新たなソーシャルサービスを創る」	1
	日本保育協会	5/14	保育現場におけるインクルージョン社会への理解と実践	1
	研修センター	5/26	保育施設における目標設定について	2
	チャイルドネット大阪	5/29	保育現場における事故防止～ヒヤリハットを今後に生かす～	1
	大阪府社会福祉協議会 保育部会	5/27～9/26	地域貢献支援員(スマイルサポーター)養成研修	24
	トークと学びの場 こみゅ	6/3	発達障害のある子どもと創る希望ある生活	1
	西日本幼児音楽研究会	6/7	幼児マーチング&CD鼓隊講習会	1
	城東区社会福祉協議会	6/9	カスタマーハラスメント～理解を深め、対処スキルを身につける～	2
	日本保育保健協議会	6/19	乳幼児期の歯・口の発育と食べる機能の発達 (ZOOM研修)	3
	チャイルドネット大阪	6/20	乳児保育で大切にしたいこと 主体的な生活づくりと楽しいあそび	1
	大阪市私立保育連盟	6/20	安心安全な食事を学ぶ	1
	チャイルドネット大阪	6/24	このあそびが大好き～0・1・2歳のあそび環境を共有しよう～	1
	日本保育保健協議会	6/26	食物アレルギーこんなことあるある (ZOOM研修)	3
	大阪市私立保育連盟	6/27	人材育成とマネジメントを学ぶ	1
	日本インリアル協会	6～3月	インリアルアプローチ(オンライン・実践)	2
	大阪市私立保育連盟	7/3	子どもの困りごとに寄り添った対応や支援	1
	児童発達支援事業所なないろ	7/5	幼保交流会	1
	チャイルドネット大阪	7/7	支援の必要な子どもの理解と環境構成	1
	チャイルドネット大阪	7/8	保育中のこどもの声～乳児期の心の育ちを大切に～	1
	都島区社会福祉施設連絡会	7/10	療育と保育の連携について	10
	近畿経営者協議会	7/15	ICT活用も含めた業務改善の進め方	4
	日本保育協会大阪支部女性部長	7/17	健康・安全研修(日本赤十字社大阪支部 幼児安全法指導員)	1
	西日本幼児音楽研究会	7/26	和太鼓講習会	2
	大阪青年経営者会	7/28	研修会「人が集まる共感型採用のしくみ」	1
	公益社団法人大阪府看護協会	7/30,7/31	感染症予防対策を実践・推進出来る感染対策研修	1
	大阪私立保育連盟北東ブロック	7/31	こどもが落ち着き魔法のわらべ歌	3
	一般財団法人大阪府地域福祉推進財団	7～9月	相談支援初任者研修	1
	西日本幼児音楽研究会	8/2	和太鼓講習会 初めて！和太鼓 始めよう！和太鼓	2

＜外部研修＞

児	ひかりのくに株式会社	8/4	2025幼児教育大講習会	7
	西日本音楽研究会	8/5	幼児音楽研修	8
	大阪市こども青少年局幼保施策部	8/7	事故防止及び事故発生対応マニュアル作成・見直しポイント	11
	一般社団法人みんなで育つLABO	8/11	皆で育つラボ「カラダの発達と手の発達」	3
	大阪市私立保育連盟	8/22	事例から読み取る子どもの育ち～主体性が湧き出ちゃう保育～	1
	大阪市私立保育連盟	8/26	新規採用保育者研修	1
	チャイルドネット大阪	9/3	子どもは「何にどう困ってる?」「どうしたいと思ってる?」～発達が気になる子どもの理解と援助～	1
	チャイルドネット大阪	9/5	かけがえない一人ひとりを大切に～乳児の子ども理解から共に育ちあう実践～	1
	大阪市私立保育連盟	9/5	子どもの育ちと保育～非認知能力とは～	1
	全国社会福祉法人経営者協議会	9/19	社会福祉法人をめぐる動向と全国経営協の取り組み	2
	大阪市私立保育連盟	9/22	集団遊びの展開を考える	1
	一般社団法人みんなで育つLABO	10/13	皆で育つラボ「食べる力を育てる発達支援」	1
	大阪精神医療センター	10/14	PEERS研修会「精神児童病棟での実践へのスーパーバイズ」	2
	日本保育保健協議会	10/17	もっと知りたい!保育士の本音で深掘るアレルギー対応(ZOOM研修)	1
	大阪市私立保育連盟	10/24	子どもが育つ・大人も育つ～絵本を通して～	1
	大阪青年経営者会	10/30	研修会「未来の社会福祉増の構想と実践戦略」	1
	全国社会福祉法人経営青年会	11/4～11/5	全国社会福祉法人経営青年会30周年記念大会	2
	大阪青年経営者会	11/10	研修会「フットボールを通じた多様性溢れる社会の実現に向けて」	1
	日本保育保健協議会	11/13	子育てスマホ時代の合理的配慮(ZOOM研修)	5
	日本保育協会大阪支部	11/27,12/5	乳児保育「今、必要な乳児保育の実践」	2
	ウェルネス	12/1	技能補助法	2
	NPO法人日本ポーテージ協会	12/6	ポーテージ早期教育プログラム基礎講座(初級フォローアップ)	1
	研修センター	12/8	育児・介護休業法について	3
	都島消防署	12/10	普通救命講習	1
	危険物防火協議会他	12/10	三協議会合同研修会(普通救命講習)	1
	エルム大阪	12/11	ペアレントトレーニング フォローアップ研修	1
童	大阪府砂川厚生福祉センター	12/12	強度行動障がい実践研修	1
	大阪府社会福祉協議会	12/22	大阪市しあわせネットワーク「CSWスマイルサポーター事例報告会」	1
	公益社団法人大阪府栄養士会	12/24～1/30	日本人の食事摂取基準(2025年版)について～改定のポイント～	2
	都島区役所 子育て支援室	1/7	子育て支援室講演会「発達障がいのあるこどもの自立とは」	1
	日本保育保健協議会	1/23	ヒヤリハットとロングテール問題「かえられないことと、変えられること」	8
	大阪市子ども青少年局	1/25	令和7年度 病児・病後児事業担当者研修会	1
	都島区役所保健福祉センター	1/29	5区合同食育研修会 噛めるお口のつくり方	2
	大阪青年経営者会	1/29	視察研修「八尾隣保館の地域貢献実践」	1
	近畿経営者協議会	2/13	緊迫する国際情勢と日本の課題	2
	一般社団法人 大阪市立保育連盟	2/24	ヒトはどのようなヒトになるのか～赤ちゃんから学ぶ～	1
	一般社団法人 みんなで育つLABO	2/28	皆で育つラボ「運動」と「手の使い方」	2
	一般財団法人大阪府地域福祉推進財団	2/9,2/10	児童発達支援管理責任者現任研修	1
	日本地域福祉施設協議会	2/21,2/22	社会的排除とセツルメント～私たちに問われているもの～	2
	大阪市社会福祉施設	3/16	成人期の発達障がいの理解と特性に沿った支援について	2
高 齢	大阪介護支援専門員協会	4/18	地域社会資源を学ぶ	1
	大阪介護支援専門員協会	5/10	要介護者の栄養マネジメント	1
	都島区居宅介護支援事業者連絡会	5/13	地域医療について	1
	大阪府介護生産性向上支援センター	5/14	働きやすい職場づくり	1
	大阪介護支援専門員協会	5/17	カスタマーハラスメント	1
	大阪市老人福祉施設連盟	5/19	BCPシミュレーション連続研修	1
	大阪府地域福祉推進財団	5/20	介護支援専門員 スキルアップ勉強会	1
	あいおいニッセイ同和損保	5/21	事例から考えるBCP研修	2
	大阪市老人福祉施設連盟	6/4	BCPシミュレーション連続研修	1
	大阪府栄養士会	6/8	各種ビタミンと疾病の関り 知っておきたい女性の健康課題について	1
	大阪府社会福祉協議会	6/10	キャリアパス対応生涯研修(中堅職員編)	1
	大阪府地域福祉推進財団	6/13	福祉・介護サービスの理念とそれに携わる者の倫理	1
	枚方市地域包括支援センター大潤会	6/17	疾病別におけるケアマネージメントの展開について	1
	大阪府介護生産性向上支援センター	6/18	働きやすい職場づくり	3
	大阪府社会福祉協議会	6/20	キャリアパス対応生涯研修(中堅職員編)	1
	大阪市老人福祉施設連盟	6/23	動き出しは本人から	2
	大王製紙株式会社	6/24	オムツ使用者のモレへの対応方法	1
	大阪府社会福祉協議会	6/27	キャリアパス対応生涯研修(中堅職員編)	1
	大阪府栄養士会	6/28	日本人の食事摂取基準2025について	1
	大阪府社会福祉協議会	7/1	採用・資金・労働時間・雇用保険について	1
	大阪府栄養士会	7/6	メンタルヘルスと栄養	1

《外部研修》

高 齢	一般社団法人全国地域医業研究会	7/11	技能実習制度廃止について、育成就労制度への移行	1
	大阪府介護生産性向上支援センター	7/15	働きやすい職場づくり	3
	都島区居宅介護支援事業者連絡会	7/15	ケアプランデータ連携について、運営指導について	1
	大阪市老人福祉施設連盟	7/18	看取りを支える介護実践	1
	あいおいニッセイ同和損保	7/25	BCP机上訓練 地震編	1
	大阪府社会福祉協議会	7/28	キャリアパス対応生涯研修(管理職員コース)	1
	大阪市老人福祉施設連盟	7/29	BCP防災訓練見学	1
	大阪府社会福祉協議会	7/31	キャリアパス対応生涯研修(管理職員コース)	1
	大阪市老人福祉施設連盟	8/1	法人理念を知り、強みを学ぶ	1
	大阪市老人福祉施設連盟	8/22	看取り期の食事について振り返り・事例検討	1
	大阪市老人福祉施設連盟	9/4	人材育成とコミュニケーション	1
	大阪府栄養士会	9/8	糖尿病治療について	1
	都島区居宅介護支援事業者連絡会	9/16	高齢者に多い事故と救急対応について	1
	老人施設部会 特養分科会	10/9	給食事業の動向と完全調理済み食品導入におけるポイント	1
	大阪府社会福祉協議会	10/14	キャリアパス対応生涯研修(中堅職員編)	1
	大阪府社会福祉協議会	10/23	キャリアパス対応生涯研修(中堅職員編)	1
	あいおいニッセイ同和損保	10/23	BCP机上訓練 感染症編	2
	大阪市老人福祉施設連盟	10/25	応用力を高めよう 災害時の食事支援	1
	大阪府社会福祉協議会	10/30	キャリアパス対応生涯研修(中堅職員編)	1
	大阪市老人福祉施設連盟	11/4	学びからの振り返り+課題設定について	1
	都島区居宅介護支援事業者連絡会	11/11	医療との連携について	1
	大阪市老人福祉施設連盟	11/14	課題分析 課題をみつけ取り組みの手法を考える	1
	あいおいニッセイ同和損保	12/18	BCPの見直しと評価のポイント	2
	都島区居宅介護支援事業者連絡会	1/13	BCP研修	1
	大阪府介護生産性向上支援センター	1/21	働きやすい職場づくり	3
	大阪市老人福祉施設連盟	1/22	災害協力シミュレーションゲーム	1
	大阪市老人福祉施設連盟	2/13	取り組みと発表(栄養士学習会)	1
	大阪市老人福祉施設連盟	2/19	取り組みと発表(介護主任学習会)	1
	大阪府介護生産性向上支援センター	3/11	働きやすい職場づくり	3
	大阪市老人福祉施設連盟	3/13	特養学習会 職種別・実践事例発表会	1

《法人内研修》

	担当(部会)	研修日	研修内容	参加人数
児 童	児童全施設	4～5月	職員ハンドブック研修	全職員
	都島児童センター	4/23	看護研修 アレルギー・エピペン使用方法	21
		4/30	看護研修 AEDの使用法・怪我の対応	21
		5/9	看護研修 感染症	20
		10/20	こどもの理解を深めるために～行動の背景にあるストレスとそれに対する支援～	14
		1/3	支援計画・立案について	15
		2/3	障がいの特性とそれに応じた支援のあり方	15
	友渕児童センター	4/2	保健研修(心肺蘇生、AED、窒息、痙攣、エピペン)	全職員
		4/24,5/1	水あそび・プール活動におけるシミュレーション研修	全職員
		7/23	防犯研修	全職員
		8/25～9/4	メンタルヘルスの必要性	全職員
	桜宮児童センター	4月	保健研修「事故、怪我の対応、心配蘇生など」	全職員
		4/24	保健研修「アレルギー対応」	5
		12/18	マーチング指導	6
		1/14	ガード研修	8
	ひがみや児童センター	年間	人間関係、職員同士や園児との関わり方など(真鍋先生)	全職員
		4/5	AED・心肺蘇生について、子どもの権利を守る教育保育の実践	全職員
	成育児童センター	7/1	都島警察 防犯研修	全職員
		4/15,4/23	心肺蘇生、SIDS、窒息時の対応	24
		5/12,5/13	食物アレルギー、エピペンについて	24
		6/10,6/11	嘔吐処理、熱中症、応急手当	24
		9/7	メンタルヘルスケアの必要性	19
	都島乳児保育センター	4/11	園内非常設備確認・災害時図上訓練	全職員
		4/18	誤嚥、誤飲時の対応・心肺蘇生(AED使用方法)	全職員
		4/25	怪我の対応(応急処置)・SIDS・熱性けいれん	全職員
		5/30	アレルギー・食事介助について	全職員
		6/30	水あそび	全職員
		12/9,12/12	嘔吐処理について	全職員

《法人内研修》

児 童	都島第二乳児保育センター	4/5	保健研修(乳幼児突然死症候群 SIDS)	11
		5/23, 27	保健研修(アレルギー・嘔吐処理について)	21
		6/18	離乳食研修	6
		6/30, 7/3	保健研修(水あそびについて)	21
		7/1	都島警察 防犯研修	全職員
		8/18	発達について(真鍋先生)	17
		8/27	大阪市青少年局 出前ミニ講座	10
		9/18	発達について・関わり方(真鍋先生)	20
		10/31	子どものあそび(真鍋先生)	21
		11/17	子どものあそび(真鍋先生)	19
		12/3	保育について(真鍋先生)	21
		1/26	保育について(真鍋先生)	22
		2/16	子どものあそび(真鍋先生)	22
		3/6	子どものあそび・声掛け(真鍋先生)	21
	友渕乳児保育センター	4/7	心肺蘇生・誤嚥時の対処法・痙攣について	全職員
		4/23	園における健康管理	全職員
		6/9	水の事故について	全職員
		6/16	アレルギーとは	全職員
	こども発達サポートステーションそれいゆ	5/24	虐待防止・身体拘束・人権研修	7
		7/5	コミュニケーション～インリアル・アプローチ～	2
		11/26,11/28	乳幼児期の性に関する情報提供	7
高 齢	特養ひまわりの郷 デイサービスひまわり 訪問介護ひーぐるま	4/17	第1回内部研修(介護技術/認知症/看取り)	25
		6/19	第2回内部研修(褥瘡/防災/リスクマネジメント/感染症)	20
		9/18	第3回内部研修(身体拘束廃止/プライバシー/理念浸透/高齢者虐待防止)	15
		10/16	第4回内部研修(リスクマネジメント/感染症/BCP/ハラスメント)	16
		12/19	第5回内部研修(BCP/腰痛予防/身体拘束廃止/介護技術/介護技術)	22
		3/19	第6回内部研修(人権/コンプライアンス/高齢者虐待防止/アンガーマネジメント)	21
	訪問介護ひーぐるま	4/10	接遇	6
		5/8	虐待と身体拘束	6
		6/12	熱中症、食中毒	6
		7/10	メンタルケア、緊急時の対応	6
		8/7	BCP災害対策、腰痛予防	6
		9/11	プライバシー保護、倫理理念	6
		10/10	事故再発防止	7
		11/13	感染症対策	7
		12/11	カスタマーハラスメント、BCP感染症対策	7
		1/8	認知症ケア、福祉用具を使った介助術	7
		2/19	看取りケア、交通ルールについて	7
		3/26	自立支援とは(人権)、感染症について	7

《沖縄》

	主催者	研修日	研修タイトル	参加人数
内 部 研 修	渡保育園	7/31	保育士の連携について	14
		11/14	救命措置とAED	9
		12/10	ヒヤリハット・苦情処理について	14
		12/15	救命措置とAED	9
	松島保育園	7/2	救命措置とAED	14
		8/27	クラスで起こる怪我等の安全対策について	6
		9/10	クラスの安全管理について	6
		11/15	調理衛生管理	16
		11/15	災害BCP研修	16
		11/15	エピペンの使い方・救命処置	16
		11/15	熱中症について	16
		12/22	消火器の訓練について	16
		1/30,2/6	救命措置とAED	11
		3/31	新年度に向けて食物アレルギー対応マニュアル研修	12
			保育士の心得・保育のしおり	12
			ヒヤリハット・事故防止について	12
外 部 研 修	那覇市教育委員会	5/13	第1回保幼こ小合同研修会	1
	那覇市役所	5/16	那覇市保育施設職員研修会「小児救急」	2
	那覇市こども発達支援センター	6/19	令和7年度発達支援保育研修会(応用研修)1	20
	那覇市教育委員会	7/1	沖縄県保幼こ小特別支援教育実践推進研修	2
	社会福祉センター	7/8	給食施設研修	1
	那覇市役所	7/10	熱中症研修	1
	那覇市教育委員会	7/30	第2回保幼こ小合同研修会	1
	那覇市役所	8/20	保育室における嘔吐処理について	2
	那覇市こども発達支援センター	9/18	令和7年度発達支援保育研修会(応用研修)2	20
	那覇市役所	10/16	保育施設内での乳幼児のけが等の応急措置について	2
	那覇市役所	11/10	社会福祉施設における災害時業務継続計画策定運用研修	2
	那覇市教育委員会	11/21	第3回保幼こ小合同研修会	1
	那覇市こども発達支援センター	11/30	令和7年度保育施設職員(インクルーシブ保育)	2
	那覇市こども発達支援センター	12/4	令和7年度発達支援保育研修会(応用研修)3	20
	那覇市役所	1/26,1/27	令和7年度保育施設職員子どもが育ち合うあそび	6
	沖縄県	10月～2月	キャリアアップ研修(マネジメント)	1
	沖縄県	10月～2月	キャリアアップ研修(発達支援)	1
	沖縄県	10月～2月	キャリアアップ研修(保健衛生・安全対策)	5
	沖縄県	10月～2月	キャリアアップ研修(乳児保育)	3
	沖縄県	10月～2月	キャリアアップ研修(食育アレルギー)	6
	沖縄県	10月～2月	キャリアアップ研修(保護者支援)	1
	沖縄県	10月～3月	キャリアアップ研修(幼児保育)	4
	沖縄県社会福祉協議会	オンデマンド	令和7年度児童福祉施設等給食担当職員研修	3
	那覇市発達支援センター	オンデマンド	臨床心理士「発達障害について」	20
	那覇市発達支援センター	オンデマンド	言語聴覚士「ことばとコミュニケーション」	20
	那覇市発達支援センター	オンデマンド	言語聴覚士「言葉や偏食～対応のヒント」	20
	那覇市発達支援センター	オンデマンド	作業療法「体の使い方が不器用な子への対応」	20
	那覇市発達支援センター	オンデマンド	臨床心理士「こどもの発達と自我の育ちについて」	20
	那覇市発達支援センター	オンデマンド	作業療法「感覚について」	20
	那覇市発達支援センター	オンデマンド	通園保育士「療育とあそび」	20

《アウトリーチ型研修》

	主催者	研修日	研修タイトル	参加人数
	比嘉正子地域貢献事業 研修センター他	4/21	「これからの保育と組織の未来を考える」	11
		5/26	「保育施設における目標設定」について	9
		6/16	保健衛生(アレルギーについて)	36
		6/24	保健衛生(感染症について)	36
		8/25	組織目標とリスクマネジメント	14
		11/10, 12/1	体育指導(子どもたちのやる気を引き出す技能補助法他)	40

～令和7年度(2025) 都島友の会 保育士等キャリアアップ研修 プログラム表～

★ 5分野（乳児・幼児・障がい児・保護者支援・マネジメント）は対面講義です

	講義内容	日程		定員	講 師
乳 児 保 育	乳児保育の意義	5月23日	金 13：30～16：45	35	大阪総合保育大学 学長 大方美香 氏
	乳児保育の環境	5月24日	土 10：00～17：15 (昼休憩45分含む)		帝塚山大学 准教授 永井久美子氏
	乳児への適切な関わり				
	乳児の発達に応じた保育内容				
	乳児保育の指導計画、記録及び評価				
幼 児 教 育	幼児教育の意義	6月20日	金 13：30～16：45	35	
	幼児教育の環境	6月28日	土 10：00～17：15 (昼休憩45分含む)		
	幼児の発達に応じた保育内容				
	幼児教育の指導計画、記録及び評価				
	小学校との接続				
障 が い 児 保 育	障がい児保育の理解	5月10日	土 10：00～17：15 (昼休憩45分含む)	35	岐阜聖徳学園大学 准教授 永井祐也 氏
	障がい児の発達の援助				
	障がい児保育の環境	5月30日	金 14：00～17：15		
	障がい児保育の指導計画、記録及び評価	5月31日	土 10：00～17：15 (昼休憩45分含む)		
	家庭及び関係機関との連携				
保 子 護 育 者 支 援	保護者支援・子育て支援の意義	7月19日	土 10：00～13：15	35	武庫川女子大学 教 授 倉石哲也 氏
	保護者に対する相談援助	7月22日	火 13：30～16：45		
	地域における子育て支援	7月29日			
	虐待予防	8月2日	土 10：00～17：15 (昼休憩45分含む)		
	関係機関との連携、地域支援の活用				
マ ネ ジ メ ン ト	マネジメントの理解	6月13日	金 13：00～18：15	35	関西福祉科学大学 教 授 小口将典 氏
	リーダーシップ・職員への助言	6月27日			
	他職種との協働・組織の課題の抽出 及び解決策の検討/組織目標の設定				
	人材育成 働きやすい環境づくり				

食育 アレルギー対応	栄養に関する基礎知識	配信日程	8月4日～8月28日	A日程 35名 + B日程 35名	大阪総合保育大学 講師 阿川勇太 氏
	食育計画の作成と活用	対面研修	8月23日（土） 10：00～13：15		
	アレルギー疾患の理解	A日程			
	保育所における食事の提供ガイドライン	対面研修	8月26日（火） 13：30～16：45		
	保育所におけるアレルギー対応ガイドライン	B日程			
保健衛生対策	*保健計画の作成と活用	配信日程	8月8日～9月1日	A日程 35名	大阪総合保育大学 講師 阿川勇太 氏
	*保育所における感染症対策ガイドライン	対面研修 日程	8月25日（月） 13：30～16：45		
	*保育の場において血液を介して感染 する病気を防止するためのガイドライン				
	*教育・保育施設等における事故防止及び 事故発生時の対応のためのガイドライン				
	*事故防止及び健康安全管理				

★研修会場（全日程）…社会福祉法人都島友の会 比嘉正子地域貢献事業研修センター3階

(〒534-0021 大阪市都島区都島本通3-16-8 TEL: 06-6925-1304)